

品名	数	備考
1 SUS一体キャビ	1	引出しなし
2 据置IHヒーター	1	2口IH
3 電気温水器12Lセット	1	電気温水器本体・排水セット・補強板
4 シンク	1	水栓穴あり
5 シングルレバーバー水栓	1	エコハンドル・一般地用
6 吊戸棚・側面不燃	1	開き扉
7 天井フィラー	2	扉カラー対応
8 フィルター付止水栓	1	床給水用
特記事項		
●レンジフード電源プラグ仕様：3芯電源プラグ		
●色柄、シンクの左右勝手などは、施工前に監督員・監理者の承諾の上、最終決定とする。		

外観図 1/20

1階談話室

断面図 1/20

1階談話室

外観図 1/20

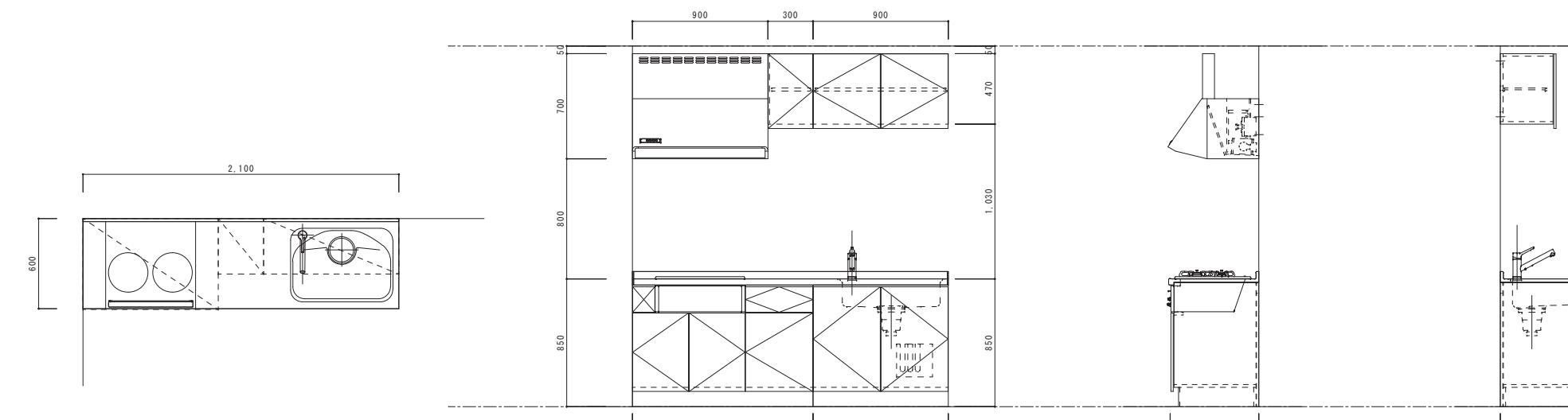
2階湯沸室

断面図 1/20

2階湯沸室

断面図 1/20

2階湯沸室



品名	数	備考
1 SUS一体キャビ	1	引出しなし
2 据置IHヒーター	1	2口IH
3 電気温水器12Lセット	1	電気温水器本体・排水セット・補強板
4 シンク	1	水栓穴あり
5 シングルレバーバー水栓	1	エコハンドル・一般地用
6 吊戸棚	1	開き扉
7 吊戸棚	1	開き扉
8 天井フィラー	2	扉カラー対応
9 フィルター付止水栓	1	床給水用
特記事項		
●レンジフード電源プラグ仕様：3芯電源プラグ		
●色柄、シンクの左右勝手などは、施工前に監督員・監理者の承諾の上、最終決定とする。		

◆NOTE◆

DATE	..	..	..	..
CHECK DATE	..	..	..	..

一級建築士(大臣)登録229265号 大村悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

家具図(2)

◆SCALE◆

A1:1/20 A3:1/40

MANAGER

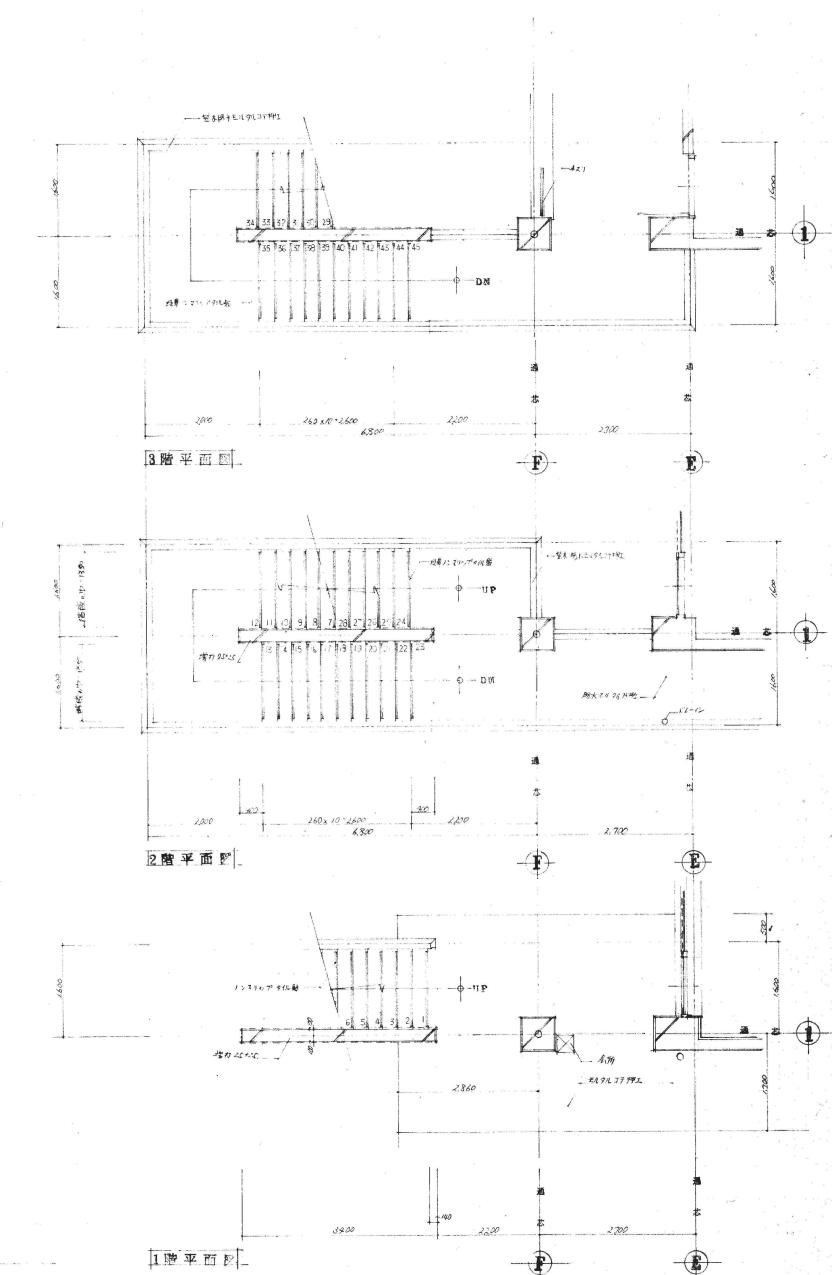
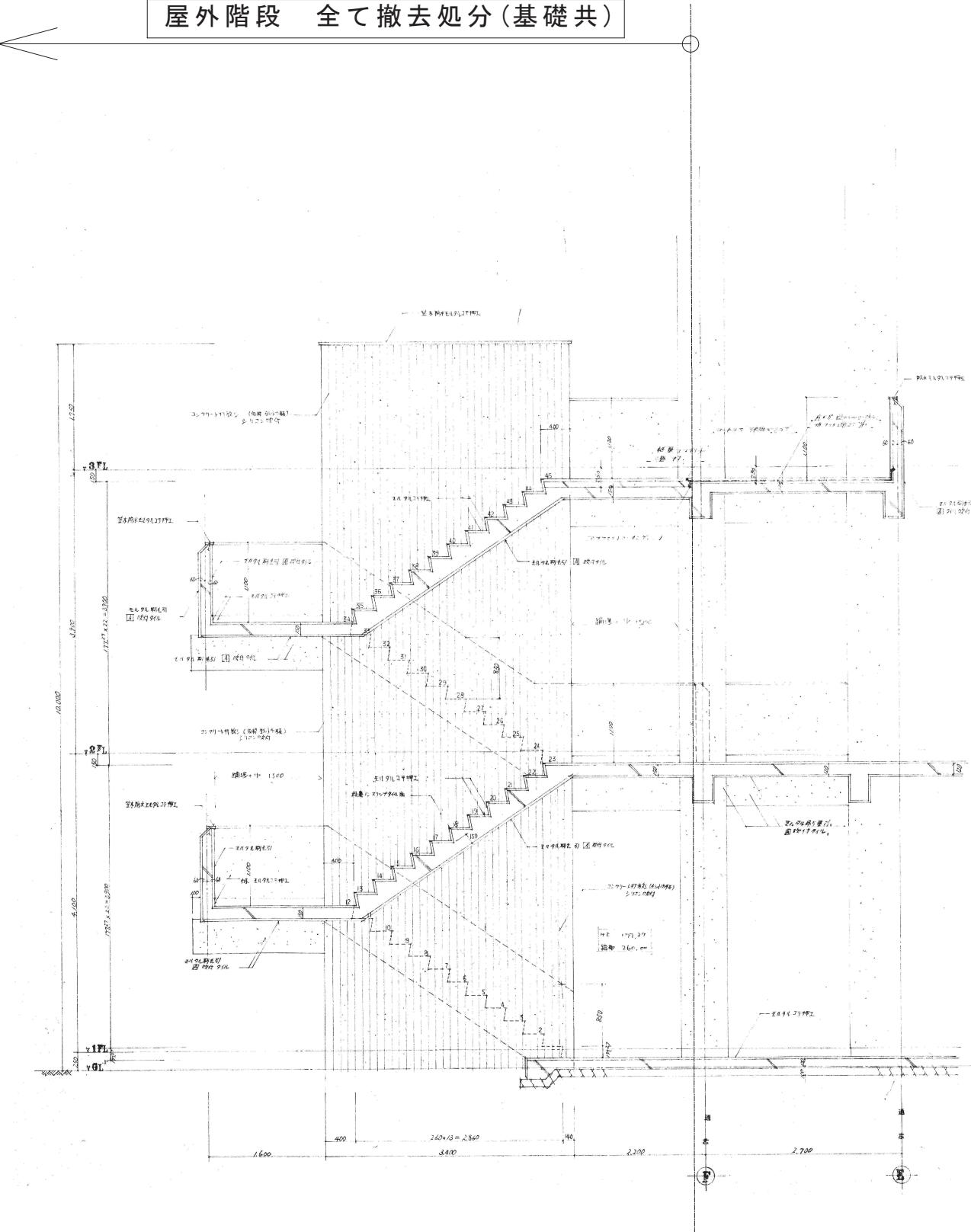
CHECKED

DRAWN

DRAWN

A-59  
◆SHEET No◆

屋外階段 全て撤去処分(基礎共)



◆NOTE◆

DRAWN	..	..	..	..
DATE	..	..	..	..
CHECK	..	..	..	..

一級建築士(大臣)登録229265号 大村悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

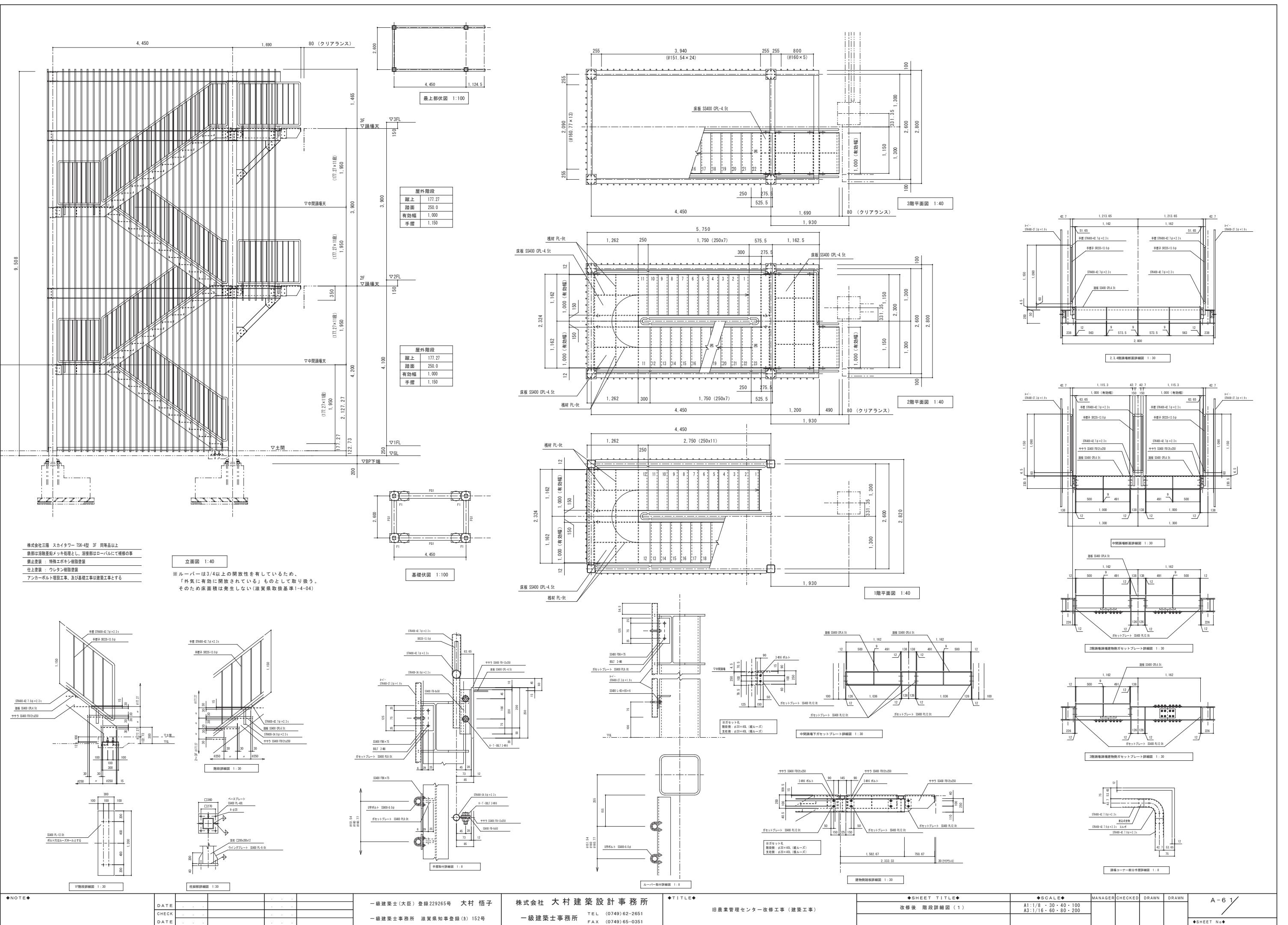
解体建物 屋外階段詳細図

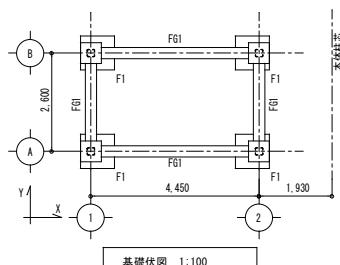
A1:1/50 A3:1/100

[参考図]

◆SCALE◆	MANAGER	CHECKED	DRAWN	DRAWN	A-60

◆SHEET No◆





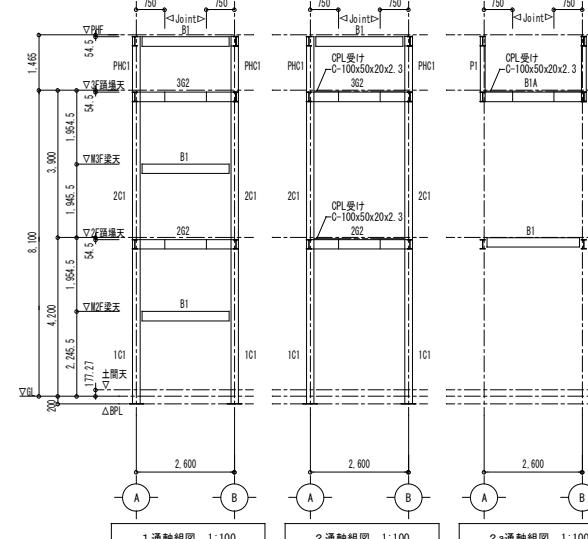
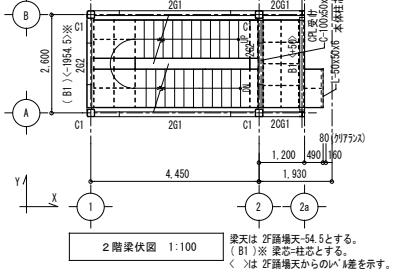
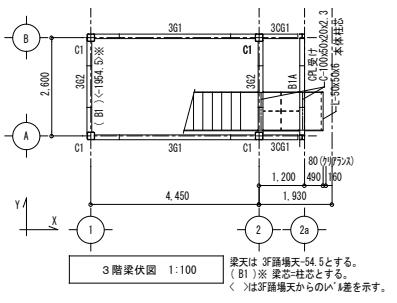
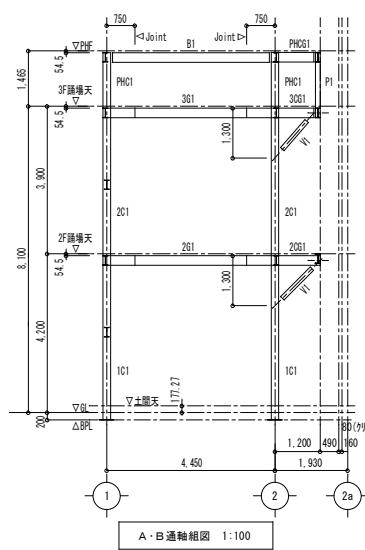
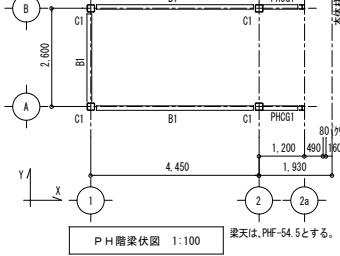
柱脚リスト 1:30	
断面寸法 H250x125x6x9	部材番号 01.2
接合部 H.T.B	底板 t×w×l 数量
フランジ 24-M16	12x125x410 2
ウェブ 6-M16	6x200x170 2

柱脚リスト 1:30	
符号 C1柱脚	ささら桁柱脚
部材 □-200x200x9	PL-12x250
断面	Y-X
Base PL PL-28x380x380 (SN400B)	PL-12x300x120 (SS400)
A. bolt 4-M22 (L=550) (SN400B)	2-M16 (L=300) (SS400)
定板 PL-16x80φ (SS400)	

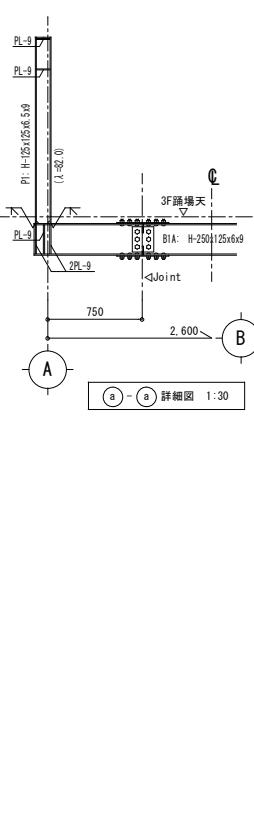
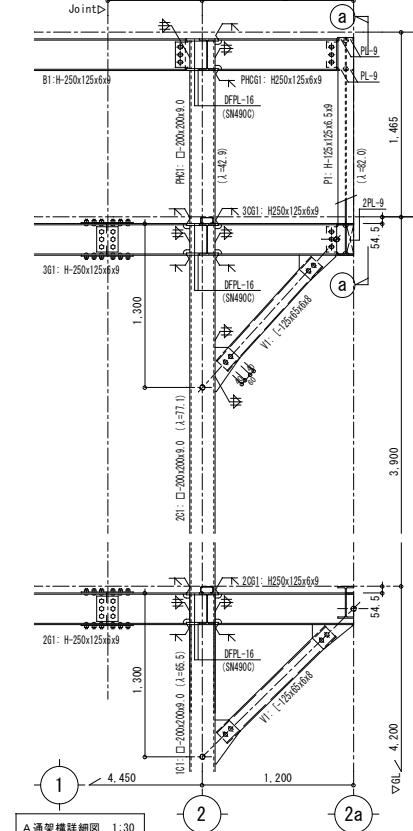
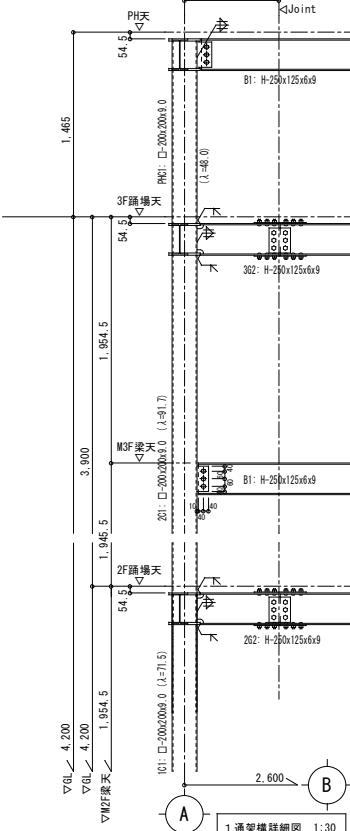
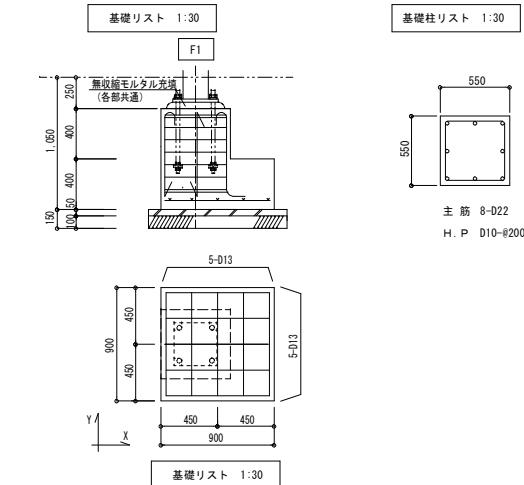
鉄骨部リスト	
部材は、溶融亜鉛メッキとする。	H.1. B1はメッキボルト(F8T)とする。
符号	部材
1~PHC1	□-200x200x9
P1	H-125x125x6.5x9
G1.2	H-250x125x6x9
CG1	H-250x125x6x9
ささら桁	PL-12x250
CPL受け(先端)	C-100x50x20x2.3
CPL受け(一部)	L-50x50x6
B1	H-250x125x6x9
B1A	H-250x125x6x9
V1	[L-125x65x6x8

種類、材質			
施工箇所	種類	材質	備考
基礎・地中梁	普通コンクリート	Fc21	
D10~D16	鉄筋	SD295A	
D19~D25	鉄筋	SD345	
柱	角型鋼管	STKR400	
柱通しダイヤフラム	鋼板	SN490C	
柱ベースプレート	鋼板	SN400B	
CPL受け(一部)	軽量構型鋼	SS400	梁上部
上記以外	型鋼・鋼板	SS400	
柱接合部	高力ボルト	F8T	
柱アンカーボルト	鋼材	SNR400B	
ささら桁アンカーボルト	鋼材	SS400	

待記事項  
基礎柱はF01とする。  
地耐力 (長期) 200 kN/m  
(短期) 400 kN/m



地盤梁リスト 1:30	
主筋のX Y方向の上下関係はどちらでも可する	
符号 F61	
断面	
寸法 250x600	
上端筋 3-D22	
下端筋 3-D22	
S, T D10-#200	
腹筋 2-D10	
巾止筋 D10-#1.000	



◆NOTE◆

DATE . . . . .  
CHECK . . . . .  
DATE . . . . .

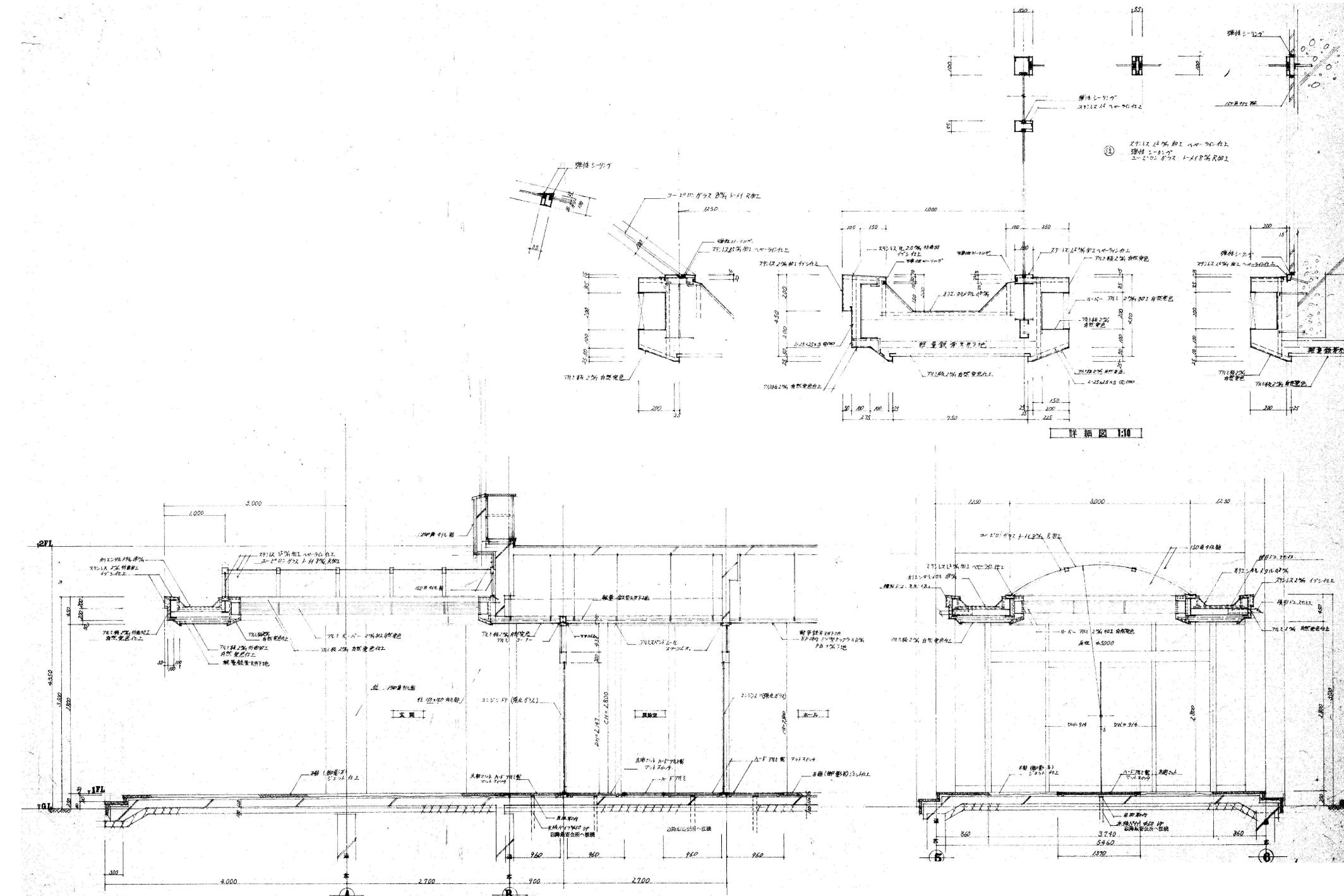
一級建築士(大臣)登録229265号 大村悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆  
旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆  
改修後 階段詳細図(2)  
◆SCALE◆  
A1:1/8 · 30·40·100  
A3:1/16 · 60·80·200  
MANAGER CHECKED DRAWN DRAWN  
A-6 2  
◆SHEET No◆





◆NOTE◆

DRAWN	..	..	..	..
DATE	..	..	..	..
CHECK	..	..	..	..

一級建築士(大臣)登録229265号 大村 悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(6)152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

玄関庇詳細図 A1:1/50 A3:1/100

[参考図]

◆SCALE◆

MANAGER

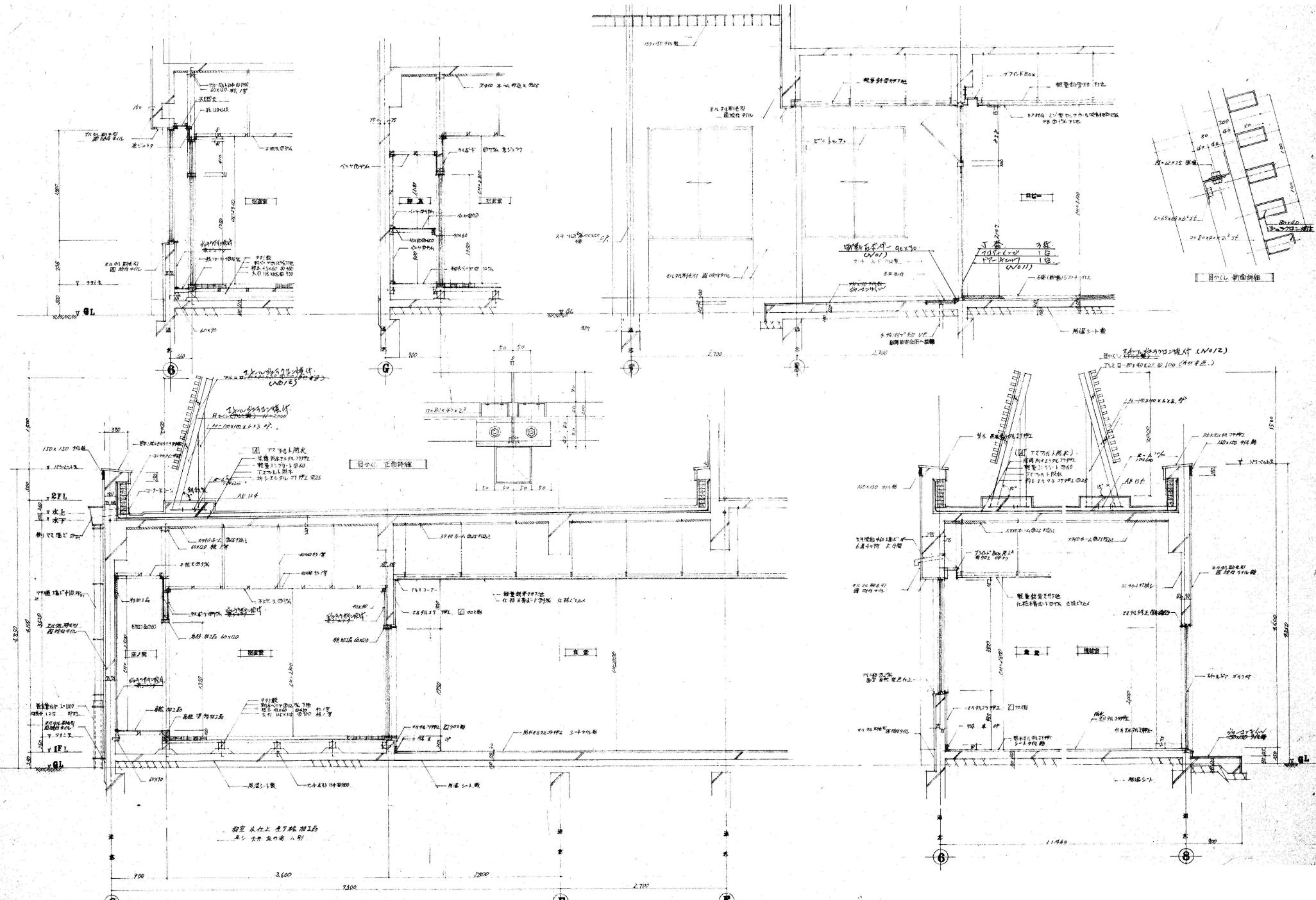
CHECKED

DRAWN

DRAWN

A-64

◆SHEET No◆



◆NOTE◆

DRAWN	.....	.....	.....
DATE	.....	.....	.....
CHECK	.....	.....	.....

一級建築士(大臣)登録229265号 大村 悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

A1:1/50 A3:1/100  
屋上詳細図

MANAGER CHECKED DRAWN DRAWN

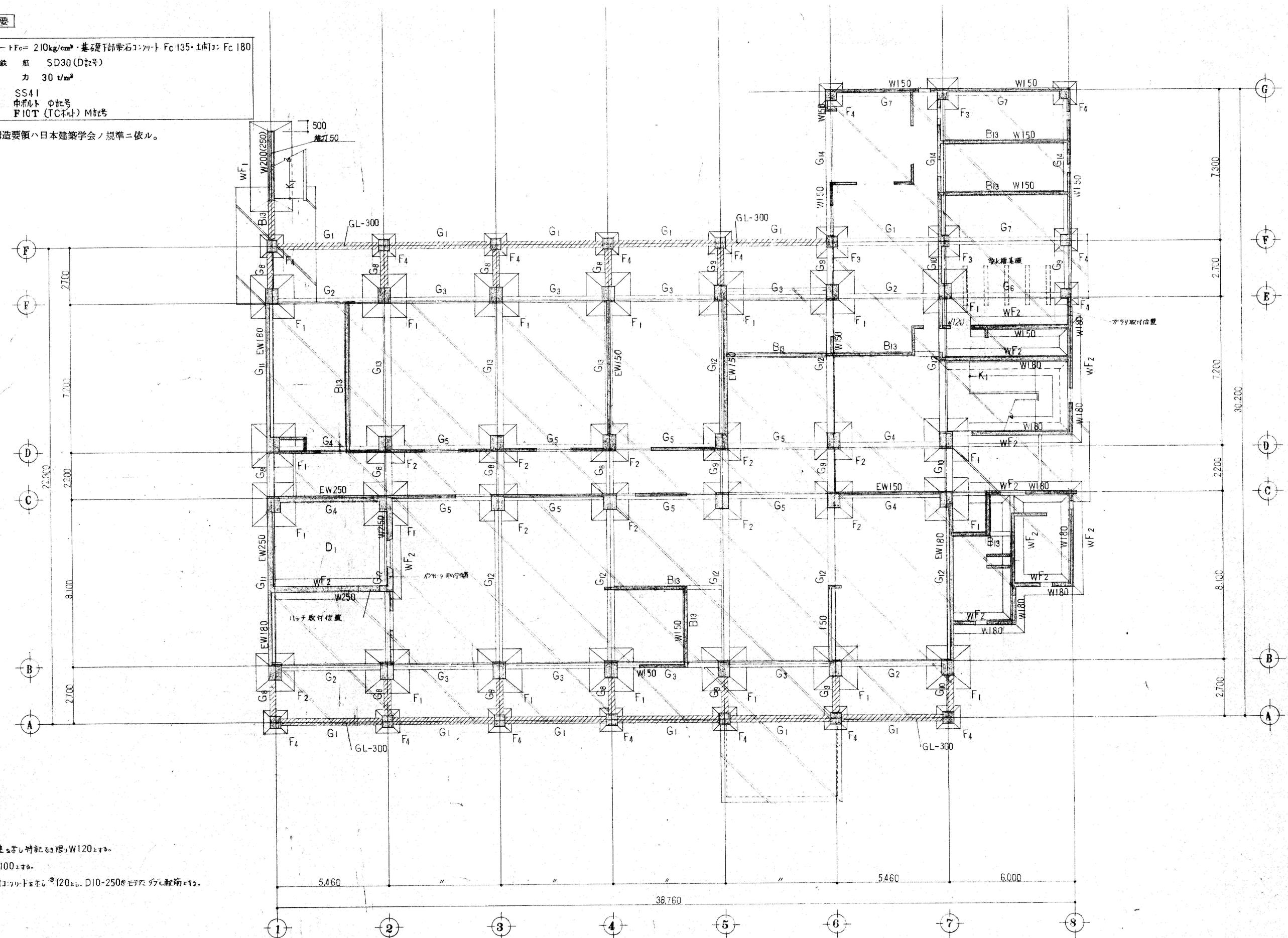
A-65

◆SHEET No◆

構造概要

使用コンクリート  $f_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ ・基礎下部素石コンクリート  $f_c 135$ ・土荷重  $f_c 180$   
使用 鉄筋 SD30 (D記号)  
地耐力  $30 \text{ t/m}^2$   
鋼材 SS41  
アンカーボルト 中ボルト φ記号  
H.T.B F10T (TC付) M記号

特記ナキ構造要領ハ日本建築学会ノ規準ニ依ル。



特記事項

- はK.C盤を下し特記なき限りW120とする。
- はCB100とする。
- △△は上向コンクリート示しI20-L,D10-250モテたダブル配筋とする。

基礎伏図 1:100

◆NOTE◆

DRAWN DATE			
CHECK DATE			

一級建築士(大臣)登録229265号 大村 恵子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

基礎伏図

◆SCALE◆

A1:1/100 A3:1/200

MANAGER

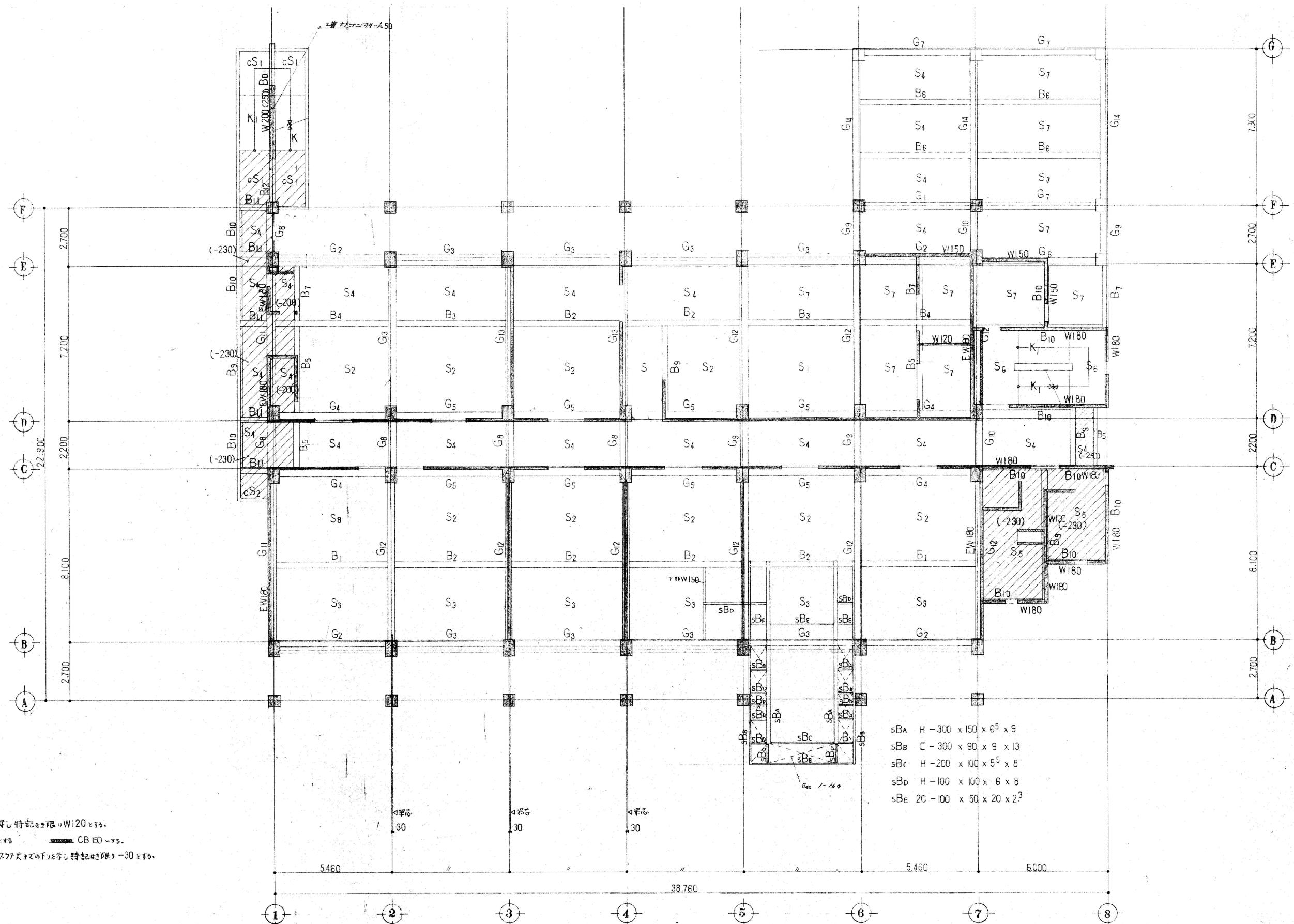
CHECKED

DRAWN

DRAWN

A-66

◆SHEET No◆



◆NOTE◆

DRAWN DATE			
CHECK DATE			

一級建築士(大臣)登録229265号 大村 恵子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

2階床梁伏図  
[参考図]

◆SCALE◆

A1:1/100 A3:1/200

MANAGER

CHECKED

DRAWN

DRAWN

A-67

◆SHEET No◆



◆NOTE◆

DRAWN DATE			
CHECK DATE			

一級建築士(大村) 登録229265号 大村 悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

3階床梁伏図  
[参考図]

◆SCALE◆

A1:1/100 A3:1/200

MANAGER

CHECKED

DRAWN

DRAWN

A-68

◆SHEET No◆



(外部)調査項目別	実数量	(外部)調査項目別	想定数量(30%割増)
クラック部	90.0m	クラック部	117.0m
モルタル浮き部	2.9m <sup>2</sup>	モルタル浮き部	3.8m <sup>2</sup>
欠損部	2箇所	欠損部	3箇所
		外壁補修部：アスベスト除去(ウェットサンダー工法) 30.0m <sup>2</sup>	

- 特記事項
- ・外壁補修工事は、次による
 

ひび割れ 0.2mm未溝	: 補修なし(下地調整C-2による)
ひび割れ 0.2mm以上1.0mm以下	: 樹脂注入工法
ひび割れ 1.0mm以上	: 树脂注入工法
露筋・欠陥・傷裂部	: エポキシ樹脂モルタル充填工法
モルタル剥き部	: アンカービンディング部分注入法
- ・外壁石綿除去工事は、上記補修箇所に関わる部分除去30m<sup>2</sup>を見込むこと
- ・目地シーリング 剥去、打ち替え
- ・タイル撤去後の下地調整(CM-2)について、塗付厚・平滑具合等について、試験施工を行い、監督職員の承諾を得ること。



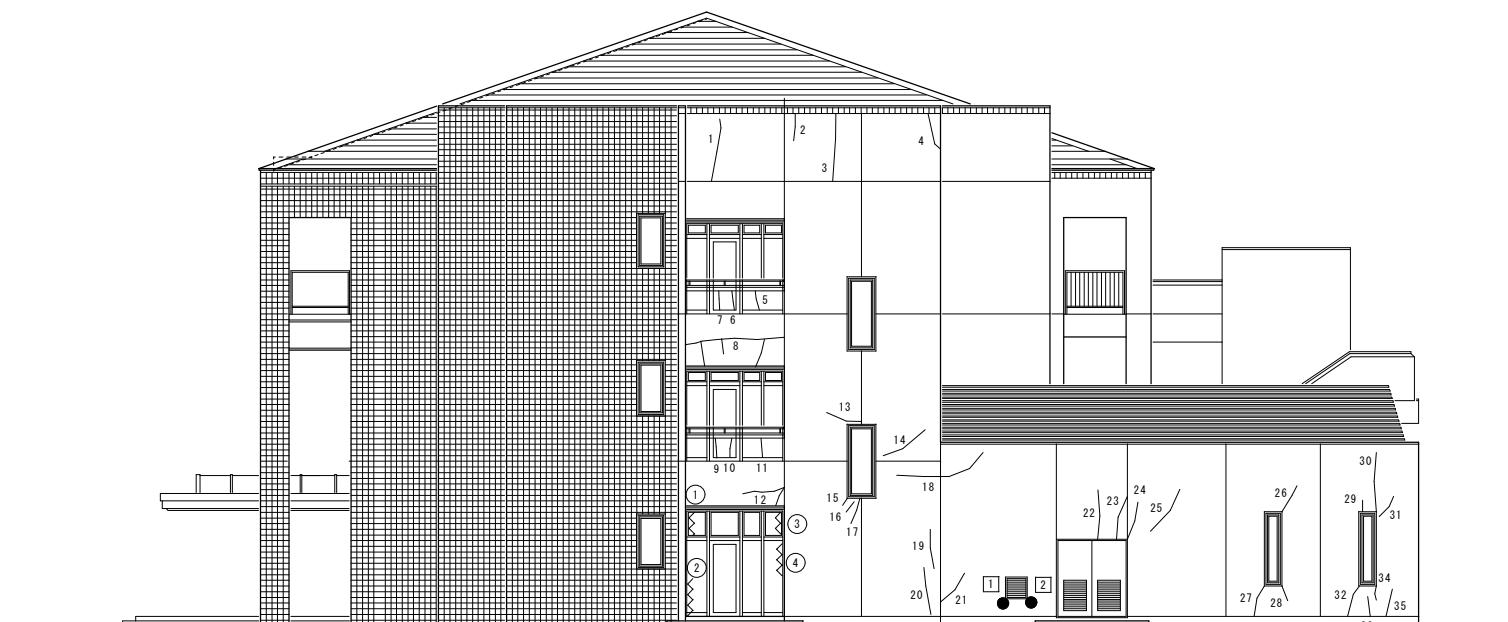
西面 クラック部		西面 モルタル浮き部	
番号	長さ(m)	番号	大きさ(m)
1	1.5	①	0.3×0.8
2	3.9	②	0.3×0.3
3	1.9	③	0.2×1.0
4	1.4	④	0.2×0.8
5	3.6	⑤	0.5×0.4
6	0.6	⑥	0.2×1.3
7	0.4		
8	3.2		
9	1.3		
10	1.3		
11	1.5		
12	1.1		
		小計	1.15

小計 27.4



北立面図 1/100

北面 クラック部			
番号	長さ (m)	番号	長さ (m)
1	0.4	21	0.7
2	0.6	22	0.7
3	1.7	23	0.7
4	0.4	24	0.7
5	0.8	25	0.7
6	0.3	26	0.7
7	0.8	27	0.7
8	0.7	28	0.7
9	2.0	29	0.7
10	3.0		
11	1.8		
12	1.4		
13	0.6		
14	0.6		
15	0.6		
16	0.6		
17	0.6		
18	0.6		
19	1.5		
20	1.4	小計	26.7



東立面図 1/100

東面 クラック部			
番号	長さ (m)	番号	長さ (m)
1	1.8	21	1.0
2	0.7	22	1.3
3	1.8	23	1.2
4	1.0	24	1.0
5	0.5	25	1.4
6	0.5	26	0.8
7	0.5	27	0.9
8	4.4	28	0.4
9	0.5	29	0.3
10	0.5	30	1.6
11	0.5	31	0.7
12	1.7	32	0.9
13	1.0	33	0.5
14	1.3	34	0.4
15	0.2	35	0.7
16	0.3		
17	0.7		
18	2.5		
19	1.1	小計	35.9
20	1.3		

### 東面 欠損部

番号	大きさ (mm)
1	70×50
2	100×50

構造特記仕様書 2024年度版																																																																																																															
<p><b>§ 1 一般事項</b></p> <p>選択項目は○印を適用し、□印が無い場合は※印を適用する。 ○印が複数ある場合は、共に適用する。</p> <p>①-1 使用材料は原則としてJIS規格適合品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。</p> <p>①-2 設計図書の優先順位は下記による。</p> <p>①-3 本特記仕様書 ②設計図 ③標準図 ④社員書（<input checked="" type="radio"/> 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 <input checked="" type="radio"/> 鉄骨工作標準図 • 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図 • 高強度せん断補強施工仕様書 ⑤日本建築学会標準仕様書（JASS5 2018年、JASSE 2018年） ⑥日本建築学会会員仕様書（JASS5 2018年、JASSE 2018年）</p> <p>⑦各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。</p> <p>⑧構造関係図及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。</p> <p>⑨第三機関による検査・試験費用は工事費に（<input checked="" type="radio"/> 含む • 含まない）</p> <p>⑩設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。</p> <p>⑪梁貫通位置、径、及び箇所数は（<input checked="" type="radio"/> 意匠図 • 構造図（<input checked="" type="radio"/> 設備図））による。</p> <p>⑫その他</p>																																																																																																															
<p><b>§ 2 構造計算ルート</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方 向</th> <th colspan="5">構造計算ルート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X</td> <td colspan="5"><input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td colspan="5"><input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑬鉄筋の継手（定着については設計図若しくは標準図による） 構造計算ルート別による主なXは、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ <input checked="" type="radio"/> 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定 • 日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 • 日本建築学会 RC規準2018 XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。</p>							方 向	構造計算ルート					X	<input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •					Y	<input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •																																																																																											
方 向	構造計算ルート																																																																																																														
X	<input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •																																																																																																														
Y	<input checked="" type="radio"/> ルート1(便所・倉庫棟) • ルート2 <input checked="" type="radio"/> ルート3(EV棟) •																																																																																																														
<p><b>§ 3 仮設工事、土工事</b></p> <p>⑭山留め、根切り</p> <p>埋戻し土、盛土、残土処分</p> <p>埋戻し土 <input checked="" type="radio"/> 根切り土の中の良土 • 挿入良土（埋戻し土は30cm毎に転圧固めを行うこと） 盛土 <input checked="" type="radio"/> 根切り土の中の良土 • 挿入良土（盛土は30cm毎に転圧固めを行うこと） 残土処分 • 場内均地</p> <p>※ 埋戻し土のうちの良土 <input checked="" type="radio"/> 自由 • 指定場所</p>																																																																																																															
<p><b>§ 4 地業工事</b></p> <p>⑮基礎及びスラブ下地業（単位mm）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場 所</th> <th>捨てコンクリート厚さ</th> <th>A : 砕石</th> <th>厚 さ</th> </tr> <tr> <td>B : 刮栗石</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 础</td> <td>独立、布</td> <td><input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100</td> <td><input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •</td> </tr> <tr> <td>ベ タ</td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100</td> <td><input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •</td> </tr> <tr> <td>基 础 案</td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100</td> <td><input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •</td> </tr> <tr> <td>土間スラブ</td> <td>※ 50 • 60 • 100</td> <td>※ A • B</td> <td>※ 60 • 100 • 150 •</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>屋内 <input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100</td> <td><input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •</td> </tr> <tr> <td>屋外</td> <td><input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100</td> <td><input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) アンカーポルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。 注2) 端部aは100以上とする。</p>							場 所	捨てコンクリート厚さ	A : 砕石	厚 さ	B : 刮栗石				基 础	独立、布	<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •	ベ タ		<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •	基 础 案		<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •	土間スラブ	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •	土間コンクリート	屋内 <input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •	屋外	<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																											
場 所	捨てコンクリート厚さ	A : 砕石	厚 さ																																																																																																												
B : 刮栗石																																																																																																															
基 础	独立、布	<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																																																												
ベ タ		<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																																																												
基 础 案		<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																																																												
土間スラブ	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •																																																																																																												
土間コンクリート	屋内 <input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																																																													
屋外	<input checked="" type="radio"/> 50 • 60 • 100	<input checked="" type="radio"/> A • B • 60 • 100 • 150 •																																																																																																													
<p>⑯設計地耐力 長期 150 kN/m<sup>2</sup> 短期 300 kN/m<sup>2</sup> 終局 kN/m<sup>2</sup> 地耐力載荷試験 <input checked="" type="radio"/> 行う（箇所、長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない</p>																																																																																																															
<p>⑰地盤改良</p> <p><input checked="" type="radio"/> 無筋コンクリート地業（便所・倉庫棟） • 縫固め工法 • ソイルセメント杭 • セメント系固化材攪拌 • 圧密攪拌工法 [ • 載荷試験 • 一輪圧縮試験] • 行う（箇所） <input checked="" type="radio"/> 行わない [ • 六面クロム溶出試験 ] • 行う <input checked="" type="radio"/> 行わない</p>																																																																																																															
<p>⑱既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭</p> <p>1) 材種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PHC杭 • A種 • B種 • C種 •</li> <li>ST杭 • A種 • B種 • C種 •</li> <li>SC杭 t mm • • •</li> <li>PRC杭 • I種 • II種 • III種 • IV種</li> <li>節杭 • A種 • B種 • C種 •</li> <li>鋼管杭</li> </ul> <p>2) 工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>打撃工法 • 油圧ハンマー • ディーゼルハンマー</li> <li>埋込み工法 • ブレボーリングセメントミルク注入工法</li> <li>ブレボーリング拡大根固め工法（認定工法）</li> <li>杭周固定液 ※あり • なし</li> <li>中掘拡大根固め工法（認定工法）</li> <li>回転式根固め工法（認定工法）</li> <li>回転杭工法</li> </ul> <p>先行掘削 ※あり • なし</p>																																																																																																															
<p>⑲杭径、設計耐力、本数表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭径(括底部)mm</th> <th>長期kN</th> <th>短期kN</th> <th>終局kN</th> <th>本数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4) 杭の構成は設計図による。</p> <p>5) 杭頭補強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接</li> <li>場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭</li> </ul> <p>4-5 i) 工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アースドリル工法 • 抗底アースドリル工法</li> <li>リバース工法 • オールケーシング工法 ( • ベノト工法 • )</li> <li>BH工法 •</li> </ul> <p>ii) 構造、設計耐力、本数表(括底部は施工径を示す)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭径(括底部)mm</th> <th>管厚 mm</th> <th>長期kN</th> <th>短期kN</th> <th>終局kN</th> <th>本数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3) 杭先端深さ • GL- m • 杭リストによる • 杭伏図による</p> <p>4) 孔壁測定 (2方向)</p> <p>※ 行う ( • 全数 • % ) • 行わない</p> <p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コンクリート</th> <th>Fc ( • 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 )</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td>• D 以下 SD295 • D 以上 SD345</td> </tr> <tr> <td>鋼管(リブ付)</td> <td>• SKK400 • SKK490</td> </tr> </tbody> </table> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ • 試験杭 • 試験機 ] • 行う ( 本 ) • 行わない</p> <p>2) 截荷試験 • 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) SL塗布 • 行う ※ 行わない</p>							杭径(括底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考	( )						( )						( )						( )						杭径(括底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考	( )							( )							( )							( )							コンクリート	Fc ( • 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 )	鉄筋	• D 以下 SD295 • D 以上 SD345	鋼管(リブ付)	• SKK400 • SKK490																																		
杭径(括底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考																																																																																																										
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
杭径(括底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考																																																																																																									
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
コンクリート	Fc ( • 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 )																																																																																																														
鉄筋	• D 以下 SD295 • D 以上 SD345																																																																																																														
鋼管(リブ付)	• SKK400 • SKK490																																																																																																														
<p><b>§ 5 鉄筋工事</b></p> <p>5-1) 材種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>径</th> <th>継手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> SD295</td> <td>D 16 以下</td> <td><input checked="" type="radio"/> 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> SD345</td> <td>D 19 以上</td> <td><input checked="" type="radio"/> 重ね継手 <input checked="" type="radio"/> ガス圧接 • 溶接継手</td> </tr> <tr> <td>• SD390</td> <td>D 29 以上</td> <td>※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )</td> </tr> <tr> <td>• SD490</td> <td>D 以上</td> <td>• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )</td> </tr> <tr> <td>• 溶接金網</td> <td></td> <td>• 重ね継手</td> </tr> <tr> <td>• 高強度せん断補強筋</td> <td>• 1275級 P • 785級 K • 685級 U</td> <td>• フック加工 • スパイラル • 工場溶接</td> </tr> </tbody> </table> <p>5-2) ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい) ○抜取り検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引張り試験(JISZ3120) 1検査口につき 3本 • 原則柱・梁の端毎に3本</li> <li>超音波探傷試験(JISZ3062) 熱間圧接試験</li> <li>1検査ロットにつき 30箇所 •</li> <li>不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。 1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で20箇所以内</li> </ul> <p>5-3) 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会様書(2017年)及び下記を参照する。 JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形鋼管溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準) JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)</p> <p>5-4) 梁貫通補強</p> <p>補強筋の原則として工場製品(評定品)を使用する。</p> <p>5-5) その他</p> <p>基礎梁、基礎梁の継手及び定着は原則として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①一般 • ②地反力を受ける</li> <li>③上載荷重が大きい場合</li> </ul> <p>梁の余長lの採用 大梁・小梁 <input checked="" type="radio"/> D' (梁有効筋) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d 基礎梁 <input checked="" type="radio"/> min (D', Lz) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d</p> <p>鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行なう。 コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。 コンクリート打設後に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。</p>							種類	径	継手	<input checked="" type="radio"/> SD295	D 16 以下	<input checked="" type="radio"/> 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接	<input checked="" type="radio"/> SD345	D 19 以上	<input checked="" type="radio"/> 重ね継手 <input checked="" type="radio"/> ガス圧接 • 溶接継手	• SD390	D 29 以上	※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )	• SD490	D 以上	• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )	• 溶接金網		• 重ね継手	• 高強度せん断補強筋	• 1275級 P • 785級 K • 685級 U	• フック加工 • スパイラル • 工場溶接																																																																																				
種類	径	継手																																																																																																													
<input checked="" type="radio"/> SD295	D 16 以下	<input checked="" type="radio"/> 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接																																																																																																													
<input checked="" type="radio"/> SD345	D 19 以上	<input checked="" type="radio"/> 重ね継手 <input checked="" type="radio"/> ガス圧接 • 溶接継手																																																																																																													
• SD390	D 29 以上	※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )																																																																																																													
• SD490	D 以上	• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手 ( 級 )																																																																																																													
• 溶接金網		• 重ね継手																																																																																																													
• 高強度せん断補強筋	• 1275級 P • 785級 K • 685級 U	• フック加工 • スパイラル • 工場溶接																																																																																																													
<p><b>§ 6 コンクリート工事</b></p> <p>6-1) レディミクストコンクリート(JIS A5308-2019)</p> <p>①セメント <input checked="" type="radio"/> 普通セメントセメントJISR5210 • 高炉セメントB種 • 低燃耗セメントセメントJISR5210</p> <p>②粗骨材 • 砂利 <input checked="" type="radio"/> 砕石 • 高炉ふくろ骨材 • 人工軽量骨材 • 再生骨材 最大径(mm) <input checked="" type="radio"/> 20 • 25 • 40</p> <p>③設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>) (使用区分は設計図の輪組図に示す)</p> <p>④普通コンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Fc18 <input checked="" type="radio"/> Fc21(便所・倉庫棟) • Fc24 • Fc27 <input checked="" type="radio"/> Fc30(EV棟)</li> <li>軽量コンクリート(※ 1種 • 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • )</li> <li>Lfc18 • Lfc21 • Lfc24 • Lfc27 • Lfc30 • Lfc</li> </ul>																																																																																																															
<p>⑤杭径、設計耐力、本数表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭径(括底部)mm</th> <th>長期kN</th> <th>短期kN</th> <th>終局kN</th> <th>本数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>( )</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>⑥杭頭補強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接</li> <li>場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭</li> </ul> <p>⑦かさ上げコンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Fc • LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 • )</li> </ul> <p>⑧混和材 <input checked="" type="radio"/> AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 膨張材</p> <p>注1). 混合材は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。</p>							杭径(括底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考	( )						( )						( )						( )																																																																																
杭径(括底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考																																																																																																										
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
( )																																																																																																															
<p>⑨杭コンクリート ( • Fc18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は軸体の強度とする))</p> <p>⑩溶接鋼 ( • Fc18 )</p> <p>⑪防水押さえコンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Fc • LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 • )</li> </ul> <p>⑫かさ上げコンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Fc • LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 • )</li> </ul> <p>⑬混和材 <input checked="" type="radio"/> AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 膨張材</p> <p>注1). 混合材は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。</p>																																																																																																															
<p>⑭溶接手法及び管理</p> <p>⑮使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。</p> <p>⑯完全溶込み溶接はAWI検定の有資格者が行うとする指定を <input checked="" type="radio"/> 行う • 行わない</p> <p>⑰本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を <input checked="" type="radio"/> 行う • 行わない</p> <p>但し、代替タブのAWI検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。</p>																																																																																																															
<p>⑱デッキプレート (単位 mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>箇 所</th> <th>基礎</th> <th>基礎梁</th> <th>一 般</th> <th>柱</th> <th>梁</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スランプ cm</td> <td>15</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水セメント比 %</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>60以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>単位水量 kg/m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>185以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>単位セメント量 kg/m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>270以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注2). スランプは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。</p> <p>試験(総体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)</p> <p>⑲骨材 [ ○ 塩分含有量 • アルカリシリカ反応性 ] <input checked="" type="radio"/> 行う • 行わない</p> <p>⑳フレッシュコンクリート [ ○ スランプ ○ 空気量 ] <input checked="" type="radio"/> 行う • 行わない</p> <p>㉑遮体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 <input checked="" type="radio"/> 行う • 行わない</p> <p>㉒コンクリートコア抜き取り圧縮試験 • 行う ※ 行わない</p> <p>㉓マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) • 行う ※ 行わない</p> <p>㉔単位水量測定 • 行う • 行わない</p> <p>㉕調合 (特記値は工事費に含む) ※ 施主と協議の上、決定すること。</p> <p>調合供用期間の( )は耐久設計基準強度Fd</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短期(18) • 標準(24) • 長期(30) • 超長期(36)</li> </ul> <p>調合管理強度 Fm=Max(Fc, Fd)+S S=3~6</p> <p>材料28日間の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。</p> <p>F=Fm+1.73 σ F=0.85Fm+3 σ</p> <p>せき板及び支柱の在茎期間(普通ボルトラングセメントの場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基礎、梁、柱、壁</th> <th>スランプ下</th> <th>染 下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートの材質 による場合 15 °C以上</td> <td>3 日</td> <td>17 日</td> </tr> <tr> <td>5 °C以上</td> <td>5 日</td> <td>25 日</td> </tr> <tr> <td>0 °C以上</td> <td>8 日</td> <td>28 日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5N/mm<sup>2</sup></td> <td>(注) 0.85Fcまたは12N/mm<sup>2</sup> (注) 設計基準強度</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。</p> <p>6-7 住宅性表示</p> <p>劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7からりよりさ</p> <p>が変わるもので、かぶりを訂正又は、設計図に明示する</p> <p>6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による</p>							箇 所	基礎	基礎梁	一 般	柱	梁	備 考	スランプ cm	15	18					水セメント比 %					60以下		単位水量 kg/m <sup>3</sup>					185以下		単位セメント量 kg/m <sup>3</sup>					270以上		基礎、梁、柱、壁	スランプ下	染 下	コンクリートの材質 による場合 15 °C以上	3 日	17 日	5 °C以上	5 日	25 日	0 °C以上	8 日	28 日		5N/mm <sup>2</sup>	(注) 0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup> (注) 設計基準強度																																																							
箇 所	基礎	基礎梁	一 般	柱	梁	備 考																																																																																																									
スランプ cm	15	18																																																																																																													
水セメント比 %					60以下																																																																																																										
単位水量 kg/m <sup>3</sup>					185以下																																																																																																										
単位セメント量 kg/m <sup>3</sup>					270以上																																																																																																										
基礎、梁、柱、壁	スランプ下	染 下																																																																																																													
コンクリートの材質 による場合 15 °C以上	3 日	17 日																																																																																																													
5 °C以上	5 日	25 日																																																																																																													
0 °C以上	8 日	28 日																																																																																																													
	5N/mm <sup>2</sup>	(注) 0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup> (注) 設計基準強度																																																																																																													
<p><b>§ 7 鉄骨工事</b></p> <p>7-1) 材種及び使用箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規 格 名 称</th> <th>鋼 材 名</th> <th>柱</th> <th>通 し ダイア</th> <th>内 大 柱</th> <th>ブ レス</th> <th>小 柱</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般構造用圧延鋼材</td> <td>SS400</td> <td>•</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接構造用圧延鋼材</td> <td>SM400A</td> <td>•</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築構造用圧延鋼材</td> <td>SN400A</td> <td>•</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SN400B</td> <td>SN490B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SN400C</td> <td>SN490C</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般構造用角形鋼管</td> <td>STKR400</td> <td>•</td> <td>STKR490</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷間成形角形鋼管</td> <td>BCR295</td> <td>•</td> <td>BCP325</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>熱間成形角形鋼管</td> <td>SHC400B</td> <td>•</td> <td>SHC400C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SHC490B</td> <td>SHC490C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般構造用炭素鋼管</td> <td>STK400</td> <td>•</td> <td>STK490</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>STK400</td> <td>STKN400</td> <td>•</td> <td>STKN490</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般構造用軽量形鋼</td> <td>SSC400</td> <td>•</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>建築構造用圧延鋼材</td> <td>SNR400</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>7-2) 高力ボルト</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>高 力 ボ ル ト の 種 類</th> <th>使 用 管 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トルシア形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> S10T</td> <td>全般</td> </tr> <tr> <td>JIS形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> F10T</td> <td>トルシア形が使用できない部分</td> </tr> <tr> <td>溶接垂鉛メキシ高力</td></tr></tbody></table>							規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 し ダイア	内 大 柱	ブ レス	小 柱	一般構造用圧延鋼材	SS400	•		○	○		溶接構造用圧延鋼材	SM400A	•					建築構造用圧延鋼材	SN400A	•					SN400B	SN490B						SN400C	SN490C	○					一般構造用角形鋼管	STKR400	•	STKR490				冷間成形角形鋼管	BCR295	•	BCP325				熱間成形角形鋼管	SHC400B	•	SHC400C				SHC490B	SHC490C						一般構造用炭素鋼管	STK400	•	STK490				STK400	STKN400	•	STKN490				一般構造用軽量形鋼	SSC400	•				○	建築構造用圧延鋼材	SNR400				○		高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 管 所	トルシア形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> S10T	全般	JIS形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> F10T	トルシア形が使用できない部分	溶接垂鉛メキシ高力
規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 し ダイア	内 大 柱	ブ レス	小 柱																																																																																																									
一般構造用圧延鋼材	SS400	•		○	○																																																																																																										
溶接構造用圧延鋼材	SM400A	•																																																																																																													
建築構造用圧延鋼材	SN400A	•																																																																																																													
SN400B	SN490B																																																																																																														
SN400C	SN490C	○																																																																																																													
一般構造用角形鋼管	STKR400	•	STKR490																																																																																																												
冷間成形角形鋼管	BCR295	•	BCP325																																																																																																												
熱間成形角形鋼管	SHC400B	•	SHC400C																																																																																																												
SHC490B	SHC490C																																																																																																														
一般構造用炭素鋼管	STK400	•	STK490																																																																																																												
STK400	STKN400	•	STKN490																																																																																																												
一般構造用軽量形鋼	SSC400	•				○																																																																																																									
建築構造用圧延鋼材	SNR400				○																																																																																																										
高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 管 所																																																																																																														
トルシア形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> S10T	全般																																																																																																														
JIS形高力ボルト <input checked="" type="radio"/> F10T	トルシア形が使用できない部分																																																																																																														
溶接垂鉛メキシ高力																																																																																																															

## 1. 一般事項

## 1) 適用の範囲

- ・本仕様書は、プレキャスト部材およびプレストレスコンクリートの施工に関する適用する。
- ・本仕様書ならびに設計図書に指示されていない事項は、下記による。
  - (1) 建築基準法・同施行令、国土交通省告示
  - (2) 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」  
2022年版 (社) 日本建築学会
  - (3) 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事」  
2013年版 (社) 日本建築学会
  - (4) 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」  
2024年版 (社) 日本建築学会
  - (5) 「プレストレスコンクリート設計施工規準・同解説」  
2022年版 (社) 日本建築学会
  - (6) 「壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準・同解説」  
2025年版 (社) 日本建築学会
  - (7) 2020年版「建築物の構造関係技術基準解説書」
  - (8) 2009年版「プレストレスコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」  
また、これらに指示されていない事項については、監督職員の指示による。

## 2) 構造形式

## プレストレス導入方式

工場製作の各種RC製プレキャストコンクリート部材（以下、PCa部材という。）を組立後、ポストテンション方式によりプレストレスを導入して、建築される、プレストレスコンクリート造の建物である。  
各種PCa部材には、平面視コ形およびロ形の壁部材、床スラブ付きの平面視コ形の壁部材、屋根スラブ部材がある。

## 3) 施工

PC（プレキャスト）工事専門業者による施工の範囲は、PCa部材の製作・運搬・架設・据付・プレストレス導入・グラウト迄の材一式とし、現場打ちRC造などによる基礎工事は含まない。ただし、プレストレス導入用のPC鋼棒またはシースの配置を正確に行うため、かつ基礎部にPC鋼棒を定着させるため、基礎工事に先立ち行うアンカーセット工事は含む。

## 4) 施工計画書の提出

施工の手順、方法、工程等の施工計画は工事着手前に十分検討し、その計画書を監督員に提出し、承諾を受ける、また、PC鋼材のミルシートを提出する。

## 2. 材料

PCa部材に使用する材料は、下記の通りとする。

## 1) セメント

JIS R 5210 に規定するポルトランドセメントとする。

## 2) 混合剤

高性能減水剤は、JIS A 6204に適合するものとする。

## 3) 鉄筋

JIS G 3112 に規定する異形鋼棒とし、下記による。

D16以下 SD295A  
D19 SD345

## 4) PC鋼棒

JIS G 3109 に規定するPC鋼棒とし、下記による。

記号	SBPR 1080/1230
呼び径	26φ
公称断面積	530.9 mm <sup>2</sup>
最大引張荷重	654 kN 以上
設計緊張荷重	400 kN
伸び	5.0%以上
リラクセーション値	4.0%以下

定着装置は定着装置等の構造安全性に関する評価（例えば、BCJ評定）を取得している定着装置を用いる。

## 5) 目地モルタルまたは目地グラウト

PCa部材の組積目地に充填する目地グラウトの材料は下記による。

- ・無収縮タイプとする。
- ・水粉体比は45%以下とする。
- ・プレストレス導入時の圧縮強度は20N/mm<sup>2</sup>以上とする。
- ・建物供用開始時の圧縮強度は40N/mm<sup>2</sup>以上とする。

目地グラウトの調合は、所定のコンシスティンシー（流動性）を得られる範囲内で、これを定める。

・目標コンシスティンシー（J14ロート流下時間）：4~8秒

## 6) シースグラウト

PC鋼棒を緊張することによりプレストレス導入した後に、シース内に充填するシースグラウトの材料は下記による。

- ・ノンブリージングタイプとする。
- ・水セメント比は45%以下とする。
- ・塩化物イオン量は0.30kg/m<sup>3</sup>とする。
- ・建物供用開始時の圧縮強度は40N/mm<sup>2</sup>以上とする。
- ・超低粘性型プレミックスタイプとする。

シースグラウトの調合は、所定のコンシスティンシー（流動性）を得られる範囲で、これを定める。

・目標コンシスティンシー（J14ロート流下時間）：3.5~6秒

## 3. コンクリート

1) プレキャストコンクリートには、JIS又はJASに適合することを規定している建築基準法第37条は適用されないこととされているが、JIS又はJASに適合するコンクリートを使用しない場合には、別途の手段でコンクリートの品質を確保する。

2) コンクリートの品質は下表を標準とし、その調合は試し練りにより定めることを原則とする。

使用部位	設計基準強度	プレストレス導入時圧縮強度	スランプ
PCa部材	40 (N/mm <sup>2</sup> )	40 (N/mm <sup>2</sup> )	21cm以下 または50cm※以下
現場打ち部 (基礎梁、基礎スラブ)	30 (N/mm <sup>2</sup> )	20 (N/mm <sup>2</sup> )	18cm以下

※スランプフロー

3) PCa部材の設計基準強度を保証する材齢は、加熱養生するため14日とする。

## 4) コンクリート打設にあたり、下記に注意する。

- ・鉄筋・型枠・PC鋼棒およびシースが移動・損傷しないこと。
- ・PC鋼棒およびシースには、バイブレーターが直接触れないようすること。

5) PCa部材のコンクリートの加熱養生は、蒸気養生を原則とし、下記について基準を定めて行う。

- ・加熱開始までの養生方法 ----- 35°C以下、3時間以上
- ・養生温度の上昇勾配 ----- 20°C/h以下
- ・最高養生温度 ----- 65°C以下、1時間以上
- ・養生温度の下降勾配 ----- 20°C/h以下

また、養生終了後は、PCa部材の急激な冷却を防止する。

## 6) 圧縮強度試験は、圧縮強度の保証日（材齢14日）及び材齢28日において行う。

尚、材齢14日における供試体の養生方法はPCa部材同一養生、材齢28日における供試体の養生方法は標準水中養生とする。

圧縮強度試験は、JIS A 1108 による。供試体の製作は JIS A 1132 による。

## 7) 圧縮強度試験は、打ち込み日毎に1回以上行う。

8) 単位セメント量は、320kg/m<sup>3</sup>以上とする。

## 4. 鉄筋

鉄筋は、正確な配置をしてコンクリート打設時に崩れないように強固に組み立てる。  
プレキャスト部材内の継手は、全て重ね継手とする。

## 5. PC鋼棒またはシースの配置

PC鋼棒またはシースの配置は、正確に堅固に行い、コンクリート打設時または締固め時に移動しないようする。

## 6. 型枠

PCa部材の型枠は、鋼製型枠または木製型枠とする。

また、コンクリートの打設または振動締めに際して充分に耐えられる型枠とする。

## 7. PCa部材のかぶり厚さ

PCa部材の鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは、建築基準法施行令第79条に示される最小かぶり厚さを満たす値とする。

設計かぶり厚さは、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事」を参照し、上記最小かぶり厚さに製造誤差5mmを加えた値とする。

部 位	最 小 か ぶ り 厚 さ (mm)	設 計 か ぶ り 厚 さ (mm)
スラブ	20	25
梁、耐力壁	30	35

PCa部材のPC鋼棒に対するコンクリート（目地部においてはグラウト）のかぶり厚さは、昭和58年建設省告示第132号第12に示される緩和規定値を満たす値とする。

設計かぶり厚さは、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事」を参照し、上記最小かぶり厚さに施工誤差5mmを加えた値とする。

部 位	最 小 か ぶ り 厚 さ (mm)	設 計 か ぶ り 厚 さ (mm)
梁、耐力壁	30	35

## 8. PCa部材の検査

PCa部材の検査は、外観、形状・寸法に対して基準を定めて行う。

軽微なひび割れや破損で、構造上・防水上許容できるものは、補修し再検査を受ける。  
そうでないものは、新たなものと取り替える。

## 9. 目地グラウト

グラウトは、材料の計量・投入順序を正しく行い、電動ミキサーを用いて所定時間練り混ぜる。

注入は、グラウトが目地シール材より吐出しないよう注入圧に注意し、グラウトポンプで徐々に行う。

圧縮強度試験は、プレストレス導入前、建物供用開始時（材齢28日）において行う。

## 10. プレストレス導入

プレストレス導入に用いる荷重は、定期的にキャリブレーションを行なう。  
プレストレス導入は、基礎部のコンクリートおよび目地グラウトが所定の強度以上に達したことを確認した後とする。  
プレストレス導入応力の管理は、荷重計の示度とPC鋼棒の伸び量を測定しながら行い、PCa部材に所定の応力が導入されるようにする。

## 11. シースグラウト

グラウトは、材料の計量・投入順序を正しく行い、電動ミキサーを用いて所定時間練り混ぜる。

グラウトの充填には、グラウトポンプを用い、シース内に空隙を残さないように入念に行う。

グラウトは、シース内をゆるやかな流速で流れるよう一定の圧力で継続して行い、出口から均質なグラウトが流出したことを目視確認後、注入作業を完了する。

圧縮強度試験は、建物供用開始時（材齢28日）において行う。

## 12. 仮設および据付

仮設用機械・器具の種類および配置・仮設方法・仮設順序などを十分検討の上、仮設計画書を提出し監督職員の承認を受ける。

## 13. その他

PC（プレキャスト）事業者は、元請業者が現地にて実施した本建物の接続先となる既存建物の測量結果を踏まえて、PCa部材寸法を決定する。

## 14. 施工順序

- 杭、地盤工事
- PC鋼棒アンカーセット工事
- 基礎スラブ、基礎梁工事
- PCa部材の据付・組積工事
- 目地モルタルまたは目地グラウト充填工事
- プレストレス導入工事
- シース孔内へのグラウト注入工事

## 15. 施工管理

PCa工事（上記②、④、⑤、⑥、⑦）における施工管理項目は以下のとおり。

工程名	管理項目	管理方法	管理様式
PC鋼棒アンカーセット工事 (上記②)	出来形（高さ、倒れ）	目視	据付精度表
	PC鋼棒、定着具、接続 具の品質・寸法	ミルシート	-
PCa部材の据付・組積工事 (上記④)	PCa部材の外観	目視	受け検査表
	PC鋼棒、定着具、接続 具の品質・寸法	ミルシート	-
目地グラウト充填工事 (上記⑤)	出来形（高さ、倒れ）	目視	据付精度表
	グラウトの品質	流動性試験 圧縮試験	目地グラウト 施工記録表
プレストレス導入工事 (上記⑥)	荷重計の表示	荷重計の表示	緊張管理表
	伸び量	伸び量	-
シース孔内へのグラウト注入工事 (上記⑦)	グラウトの品質	流動性試験 圧縮試験	シースグラウト 施工記録表
	グラウトの品質	流動性試験 圧縮試験	-

◆NOTE◆		
--------	--	--

**鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 2024年度版**

**§ 1 一般事項**

**1-1 基本事項**

- 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 設計図面に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」による。
- 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
- 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

**1-2 その他**

**2-1 鉄筋の表示記号**

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	*	X	Ø	Ø	●	○	○	⊗	⊕	⊖	⊗
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47

○: フックのない場合  
○: フックのある場合  
○: 本数に差がある場合  
○: 機械式手表示  
○: ガス圧接、溶接手表示

**2-2 鉄筋の折り曲げ**

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折り曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径によく区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345 SD390 SD490	D16以下 D19~D41 D41以下 D25以下	3d以上 4d以上 5d以上 5d以上
135°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345 SD390 SD490	D16以下 D19~D41 D41以下 D29~D41	4d以上 5d以上 6d以上 6d以上
90°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345 SD390 SD490	D16以下 D19~D41 D41以下 D25以下	3d以上 4d以上 5d以上 6d以上

(SD490は90°のみ)

**2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ**

JASS5(2018)に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm²)	重ね継手の長さ	定着の長さ		
SD295 (SD345を示す)	18	45d(50d)	40d 35d 21	15d (20d)	
	21	40d(45d)	35d 30d 24~27	15d (20d)	
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	25d,15(20)d 20d(25d),15(20)d	15d	
	30~36	35d 25d	30d 20d,15d	15d	
	39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d),15d	15d	
	48~60	30d 20d	25d 15d,15d	15d	
	SD390 (SD490を示す)	21	50d(-) 35d(-)	40d(-) 30d(-),20d(-)	20d (-)
		24~27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d),20(25)d	15d (-)
		30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d),20(25)d	15d (-)
		39~45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d),15(20)d	15d (-)
48~60		35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d),15(20)d	15d (-)	

一般定着の直線L<sub>h</sub>またはフック付きのL<sub>h</sub>, L<sub>a</sub>, L<sub>b</sub>の図

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起點間の距離、又、フック付きのL<sub>h</sub>は仕口面から鉄筋の折曲げ起點までとし、末端のフックは定着長さに含まない。  
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

設計者判断により、認定を取得した工法ではa=0とする。

**2-4 継手一般**

ガス圧接手・溶接継手・機械式継手に関する事項は、標準仕様書および施工要領ならびに「鉄筋継手工事特記仕様書(2019年版)」共に「公益社団法人日本鉄筋継手協会編に準據」。

1. ガス圧接、溶接継手  
2. 機械式継手  
3. 重ね継手 (壁、スラブ筋を除く。)

**2-5 鉄筋のフック**

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。  
(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)  
5. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

6. 下記の1. ~ 7. に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。  
1. あら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋  
3. 柱及び梁 (基礎梁を除く) の出隅部分の鉄筋 (下図参照)

**2-6 鉄筋のあき**

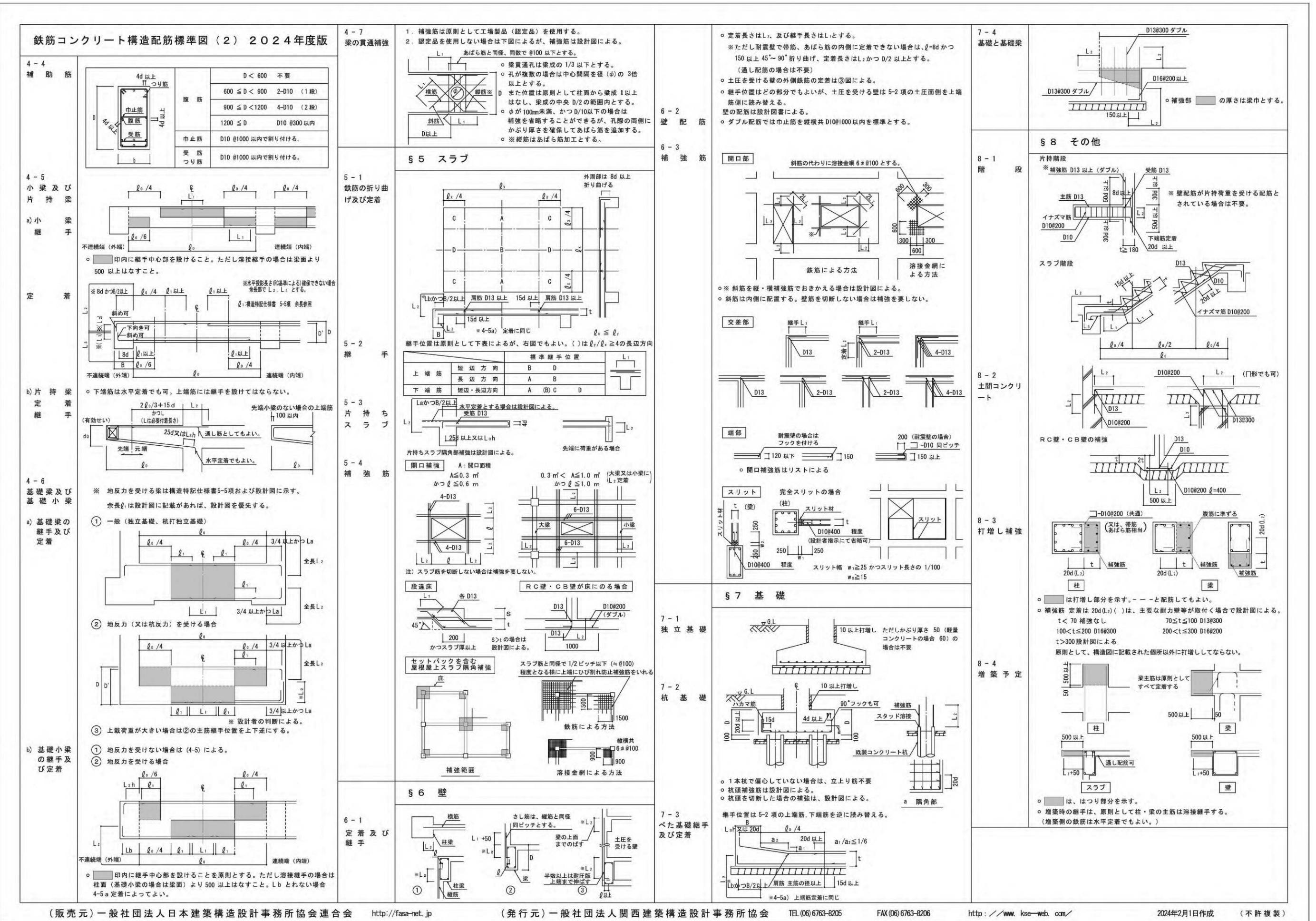
柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

**2-7 かぶり厚さ**

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	30(20) 40(30)
	柱 耐力壁	40(30) 50(40)
	梁 壁	50(40) 50(40)
	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り	50(40) 50(40)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り	70(60)

※1: 直交梁  
※2: 第一帯筋  
※3: 第二帯筋  
※4: 交互配筋  
※5: バネルゾーン部分は割り離しても可  
※6: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※7: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※8: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※9: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※10: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※11: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※12: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※13: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※14: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※15: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※16: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※17: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※18: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※19: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※20: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※21: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※22: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※23: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※24: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※25: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※26: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※27: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※28: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※29: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※30: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※31: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※32: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※33: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※34: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※35: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※36: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※37: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※38: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※39: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※40: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※41: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※42: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※43: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※44: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※45: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※46: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※47: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※48: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※49: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※50: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※51: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※52: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※53: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※54: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※55: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※56: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※57: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※58: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※59: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※60: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※61: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※62: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※63: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※64: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※65: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※66: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※67: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※68: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※69: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※70: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※71: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※72: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※73: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※74: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※75: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※76: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※77: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※78: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※79: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※80: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※81: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※82: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※83: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※84: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※85: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※86: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※87: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※88: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※89: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※90: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※91: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※92: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※93: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※94: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※95: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※96: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※97: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※98: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※99: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※100: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※101: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※102: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※103: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※104: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※105: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※106: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※107: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※108: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※109: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※110: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※111: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※112: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※113: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※114: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※115: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※116: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※117: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※118: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※119: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※120: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※121: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※122: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※123: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※124: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※125: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※126: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※127: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※128: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※129: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※130: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※131: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※132: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※133: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※134: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※135: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※136: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※137: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※138: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※139: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※140: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※141: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※142: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※143: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※144: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※145: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※146: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※147: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※148: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※149: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※150: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※151: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※152: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※153: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※154: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※155: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※156: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※157: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※158: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※159: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※160: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※161: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※162: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※163: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※164: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※165: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※166: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※167: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※168: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※169: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※170: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※171: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※172: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※173: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※174: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※175: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※176: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※177: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※178: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※179: D: 基礎梁部分は同様で□形100以下とする  
※180: D: 基礎梁部分は同様で□形150以下とする  
※181: D:



**鉄骨工作標準図 (1) 2024年度版**

<b>§ 1 一般事項</b>		<b>§ 4 溶接接合</b>	
1-1 基本事項		4-1 隅肉溶接	
1-2 その他		4-2 完全溶込み溶接(突合せ溶接)	
2-1 路号		4-3 部分溶込み溶接	
3-1 高力ボルト		4-4 フレア溶接	
3-2 高力ボルトのピッチ		4-5 その他	
3-3 形鋼のゲージ		5-1 継手リスト	
		5-2 小梁仕口	
		5-3 刚接合	

**§ 1 一般事項**

- 使用材料、工法等は構造特記仕様による。
- 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 製作精度等に関しては、JASS 6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

**§ 2 共通事項**

o AB	アンカーボルト	o BH	組立てH形鋼
o BPL	ベースプレート	o CHPL	チェックプレート
o DFPL	ダイアフラム	o FB	フラットバー
o FPL	フランジプレート	o GPL	ガセットプレート
o HTB	高力ボルト	o RPL	リブプレート
o SPL	スプライスプレート	o TB	ターンパックル
o WPL	ウェブプレート	o W-19	溶接記号 (§ 4 参照)

**§ 3 ボルト接合**

**3-1 高力ボルト**

ねじの呼び	締付け長さに加える長さ	
F8T, F10T	S10T	
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

1. 特記以外はすべてS10T (トルシア形高力ボルト、上図) 又はF10Tとする。  
2. 本締めに使用的ボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。  
3. ボルトの接合面の処理は、締付け摩擦面を平グラインダ掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは1次締付け後、マークインを入れてから本締めをする。  
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

**3-2 高力ボルトのピッチ**

呼び径	M 16	M 20	M 22	M 24
孔径	18	22	24	26
標準	60	60	60	70
最小	40	50	55	60
はしあき	40	40(50)	40(55)	45(60)
せん断線、手動ガス切断線	28	34	38	44
延長線、自動ガス切断線等	22	26	28	32

( ) 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

**3-3 形鋼のゲージ**

B	B	B							
A or B	g <sup>1</sup>	g <sup>2</sup>	最大軸径	B	g <sup>1</sup>	g <sup>2</sup>	最大軸径		
**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16	
60	35	16	125	75	16	65	35	20	
65	35	20	150	90	22	70	40	20	
70	40	20	175	105	22	75	40	22	
75	40	22	200	120	24	80	45	22	
80	45	22	250	150	24	90	50	24	
90	50	24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55	24	350	140	70	24			
125	50	35	400	140	90	24			
130	50	40	24						
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

\* B = 300は千鳥打ちとする。  
\*\* 印の欄の g 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小端距離の規定にかかわらず用いることができる。

**§ 4 溶接接合**

**4-1 隅肉溶接**

**4-2 完全溶込み溶接(突合せ溶接)**

**4-3 部分溶込み溶接**

**4-4 フレア溶接**

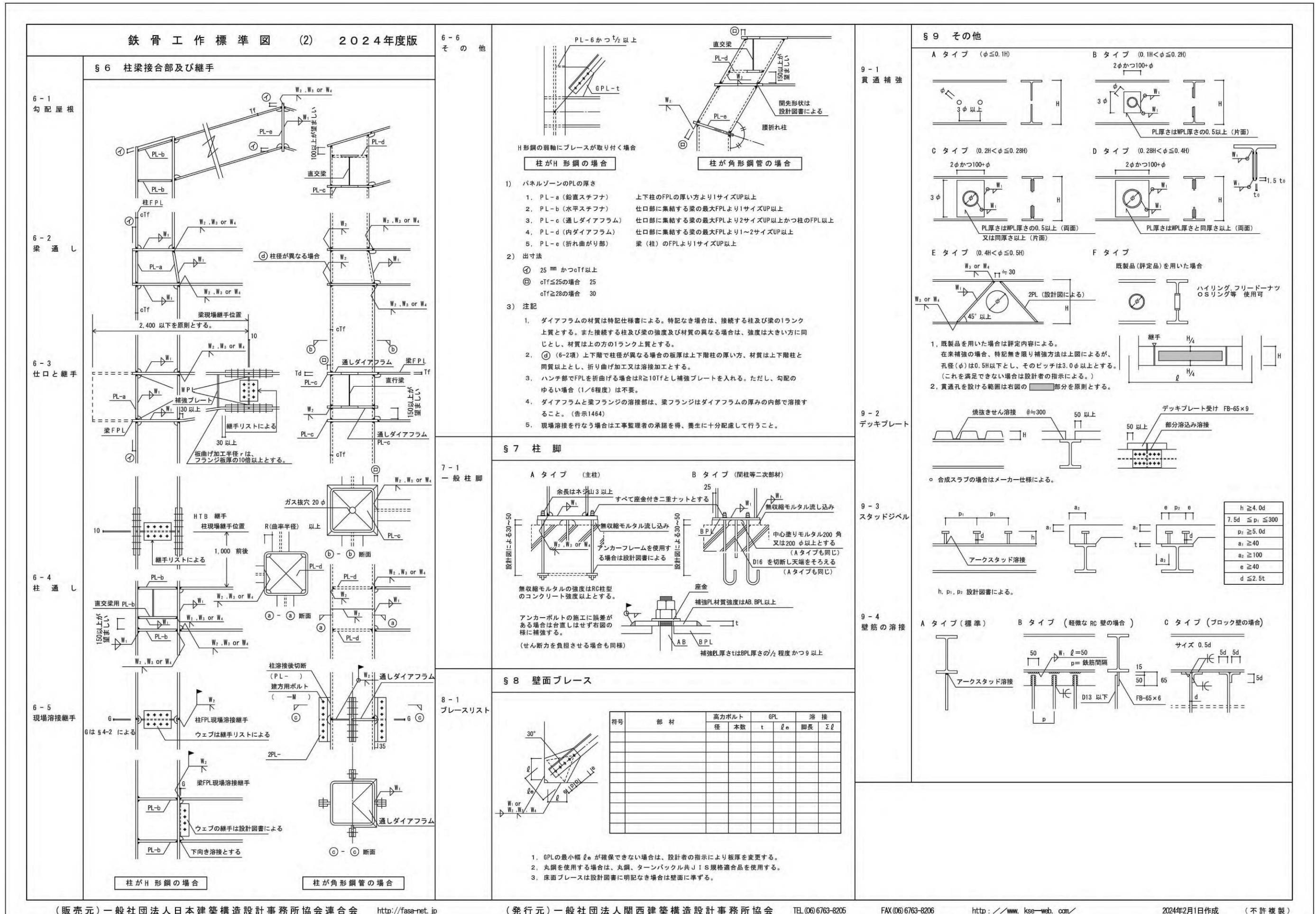
**4-5 その他**

**§ 5 継手**

**5-1 継手リスト**

**5-2 小梁仕口**

**5-3 刚接合**



◆NOTE◆

DATE

CHECK

DATE

一級建築士(大臣)登録229265号 大村悟子  
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(5) 152号

株式会社 大村建築設計事務所  
一級建築士事務所 TEL (0749) 62-2651  
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆  
旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆  
【EV棟】 鉄骨基礎断面図(2)

A1: — A3: —

MANAGER

CHECKED

DRAWN

DRAWN

S-6

一級建築士 第254743号  
構造設計一級建築士 第2357号  
麻績 健作



## 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下

□-150×150 ~ □-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

## ベースパック柱脚工法 設計 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 旭化成建材株式会社  
TEL03 (3624) 5336 TEL03 (3296) 3515

2021年4月作成

**1. 工法概要**

**1. 1 構成部材**

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記⑦～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

**1. 2 柱脚の定着方法概要**

**2. 柱**

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	●
	TSC295	

**3. 構成部材・寸法**

**3. 1 ベースプレート**

●材質 SN490B [JIS G 3136]

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

**3. 2 アンカーボルト(Mアンカーボルト)** [建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料]

●形状 SN490B [JIS G 3136]

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

**3. 3 Mナット** [建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料]

●形状 SN490B [JIS G 3136]

i) Aタイプ

ii) Cタイプ

iii) 特Cタイプ

**3. 4 定着座金**

●形状 SN490B [JIS G 3136]

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

**3. 5 注入座金** [建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料]

●形状 SN490B [JIS G 3136]

●寸法(mm)

記号	通用アングルボルト	a1	a2	c	t	d	材質
PM27	M27	32	42	101	18	28	SS400
PM30	M30	32	42	101	18	31	SS400
PM33	M33	35	45	110	18	34	SS400
PM36	M36	35	45	110	18	37	SS400
PM39	M39	38	48	118	18	40	SS400

**3. 6 フレームベース**

●形状 SN490B [JIS G 3136]

i) Aタイプ

ii) Cタイプ

iii) 特Cタイプ

**3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法**

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

●柱脚の据付け高さは50mm以下とする。  
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超える場合、Lシリーズを使用することができる。

**4. コンクリート柱型**

**4. 1 形状・材質**

●形状 形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

**4. 2 配筋**

配筋仕様は下表による。

**4. 3 基礎立上がり**

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。  
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超える場合、Lシリーズを使用することができる。

**4. 4 特記事項** 上記内容によらない場合は下記による。

採用

- 下表標準柱型寸法からの変更あり「柱型寸法最大・最小値一覧」による
- 下表標準配筋仕様からの変更あり
- 立上り筋に頂部フックが必要

**5. 工場製作(溶接)**

■組立

- ベースプレートの中心線(ガ'線)に柱材軸心を合わせる。
- 溶接方法(完全溶込み溶接)
- 完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用厚板T(mm)	ルート間隔G(mm)	ルート面R(mm)	開先角度α1(°)	溶接姿勢
被覆アングル溶接	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45 (-5,+∞)	下向き
	9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35 (-5,+∞)	下向き
セラミカルアングル溶接	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45 (-5,+∞)	下向き
	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35 (-5,+∞)	下向き

許容差・記号は制限値を示す。  
\*記号は「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

**6. 工事場施工**

**6. 1 基礎工事**

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

**6. 2 アンカーボルト据付け**

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

**6. 3 配筋およびコンクリート打設**

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

**6. 4 建方**

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し大きさは右図による。

**6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)**

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

**6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入**

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

**7. 本工法の施工及び施工管理**

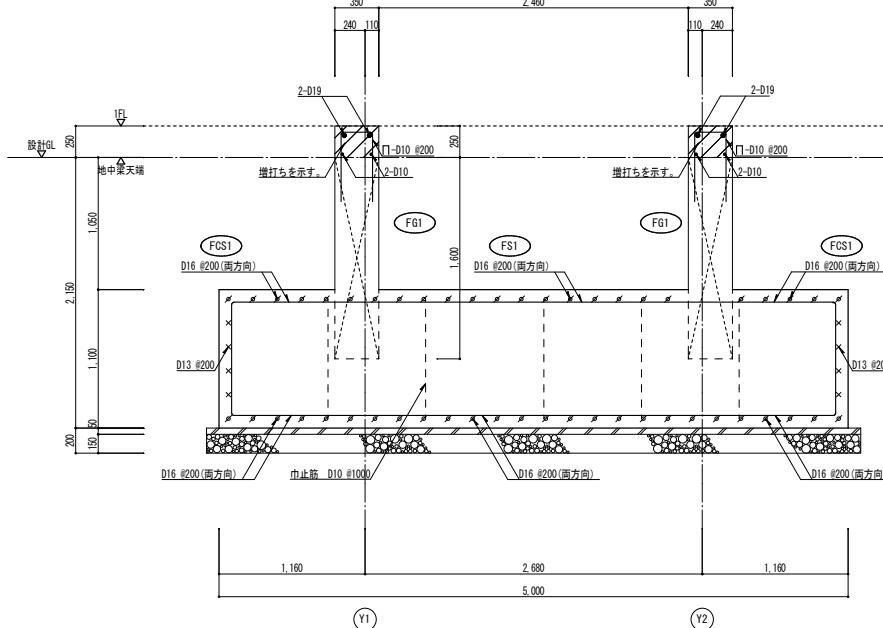
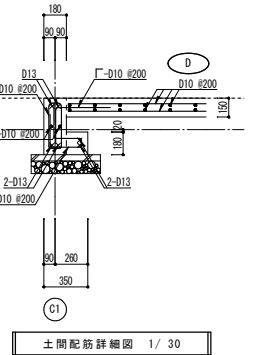
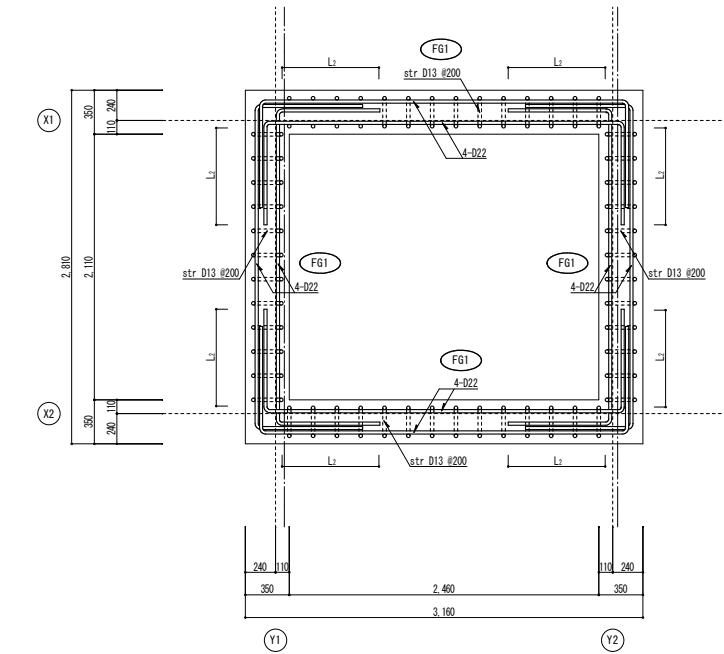
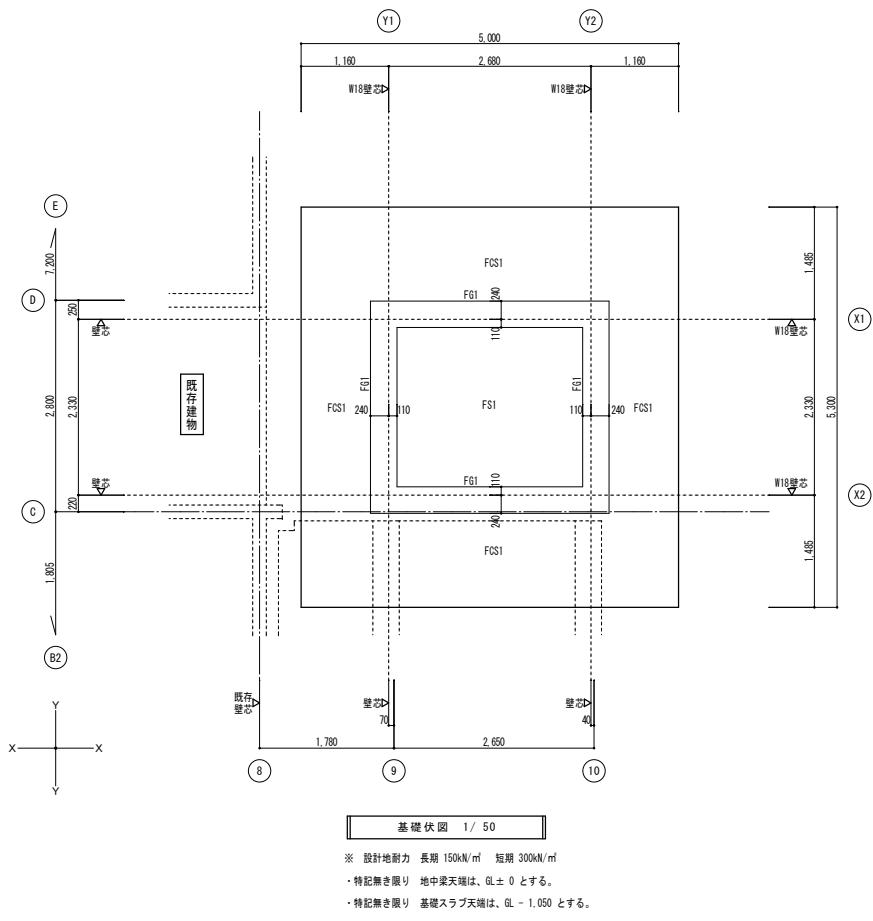
●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行いうものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。







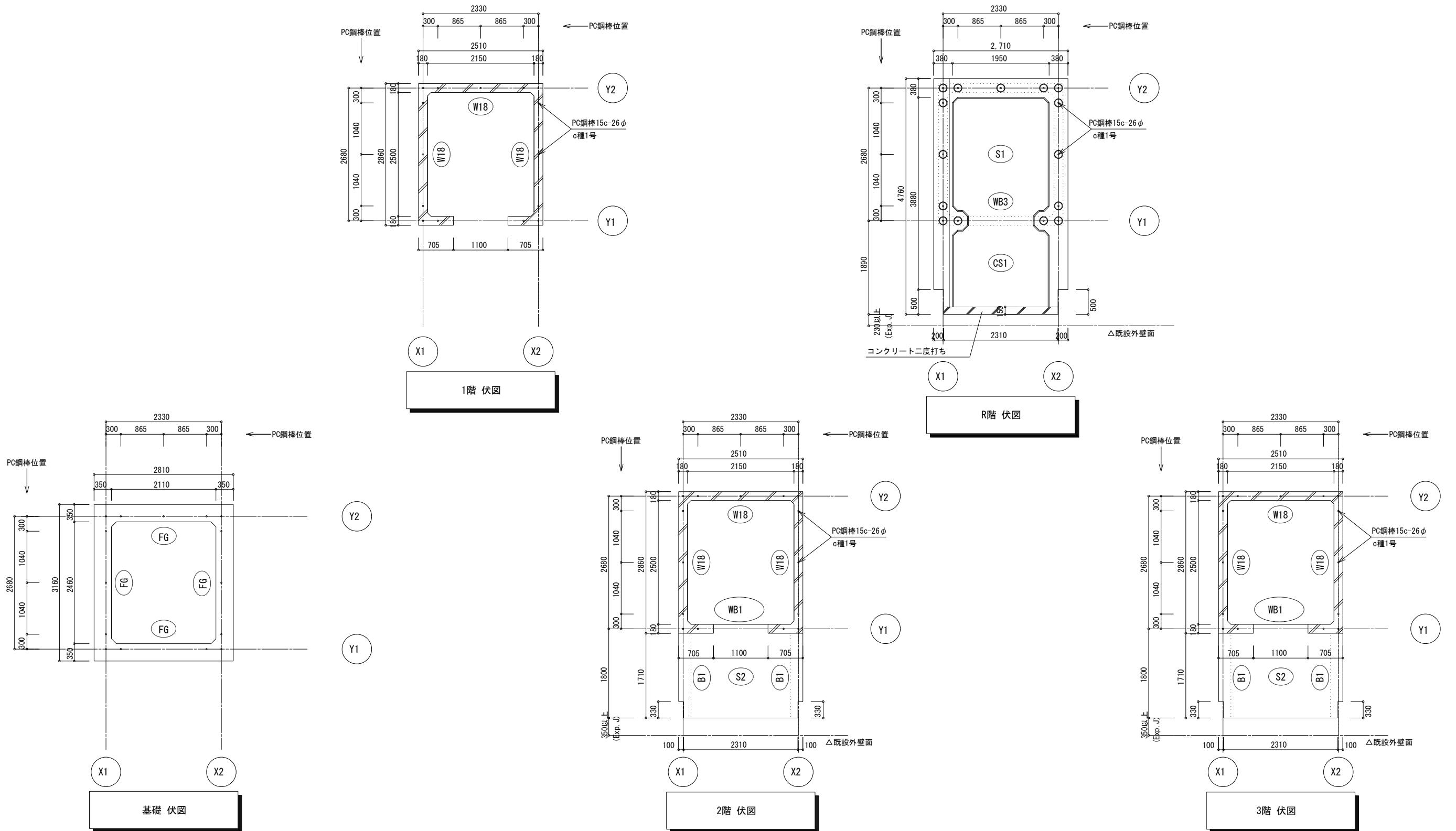
地中梁リスト		1/30
※ 梱止め筋及び筋・受筋は、D10@1000 以下とする。		
階	符 号	F61
位 置		全断面
	GL ± 0 ▽	
1	断 面	
	B x D	350x1600
	上 端 筋	4-D22
	下 端 筋	4-D22
	腹 筋	8-D13
	スチーラップ	□-D13 @200

FS1・FCS1断面配筋図 1/30

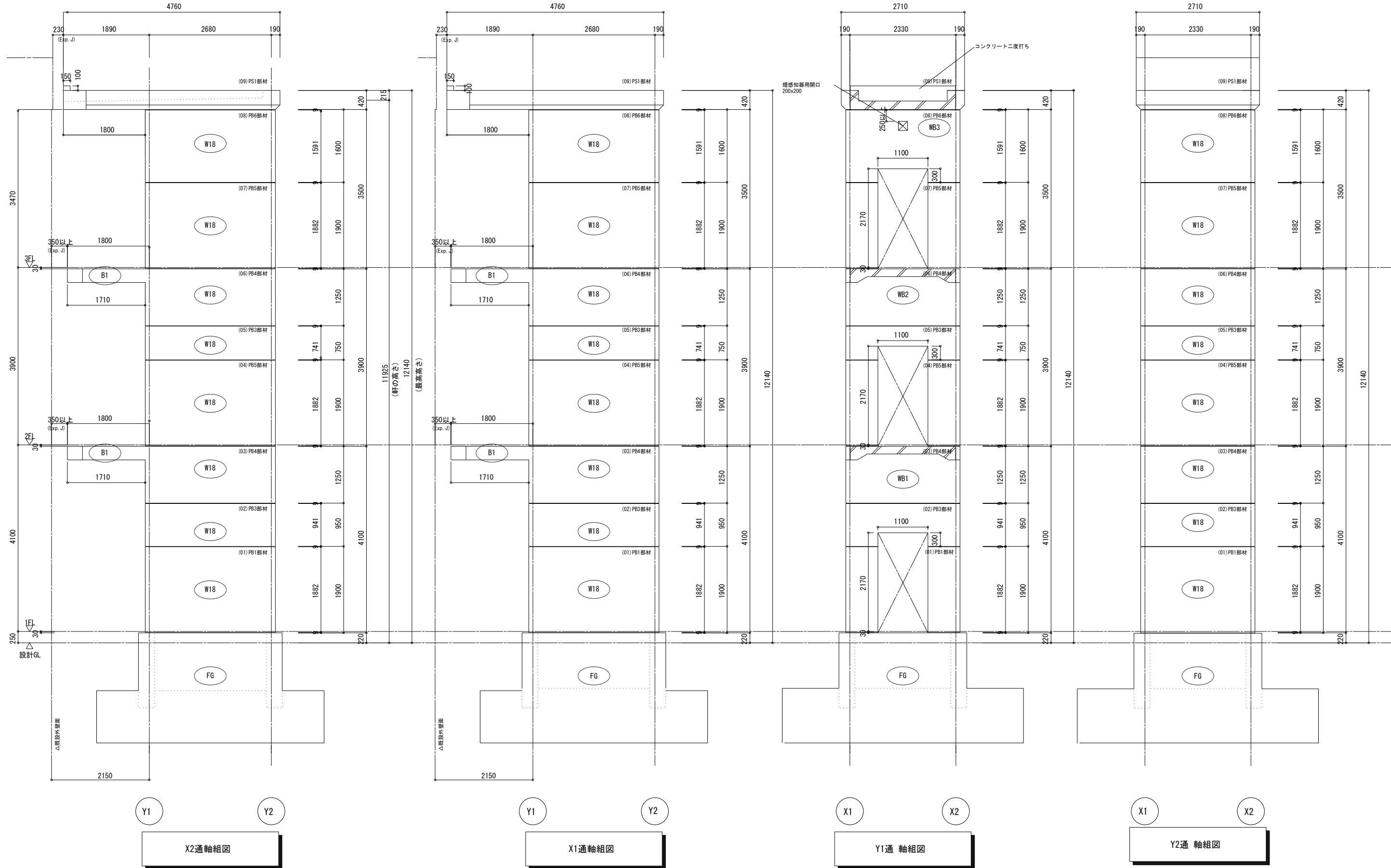
床版リスト

符 号	厚 み	位 置	短辺方向	長辺方向	備 考
FS1	1100	上 端 筋	D16 @200	D16 @200	モチアミ
		下 端 筋	D16 @200	D16 @200	
FCS1	1100	上 端 筋	D16 @200	D16 @200	片持ちスラブ
		下 端 筋	D16 @200	D16 @200	

使 用 材 料	
・コンクリート	: F c30 (N/mm <sup>2</sup> ) <基礎、地中梁、柱型>
	: F c18 (N/mm <sup>2</sup> ) <土間、捨コンクリート>
・鉄 筋	: SD 295 <D16以下> 縦筋は重ね縦筋とする。
	: SD 345 <D19以上> 縦筋はガス圧接縫手とする。



◆NOTE◆				一级建筑师(大臣)登録229265号	大村 悟子	株式会社 大村建築設計事務所	◆TITLE◆	◆SHEET TITLE◆	◆SCALE◆	MANAGER	CHECKED	DRAWN	DRAWN	◆SHEET No◆
DATE				一级建筑师事務所 滋賀県知事登録(令)152号		TEL (0749) 62-2651 FAX (0749) 65-0351	旧農業管理センター改修工事(建築工事)	EVシャフト 伏図	A1:1/40 A3:1/80					S-11



---

◆NOTE◆

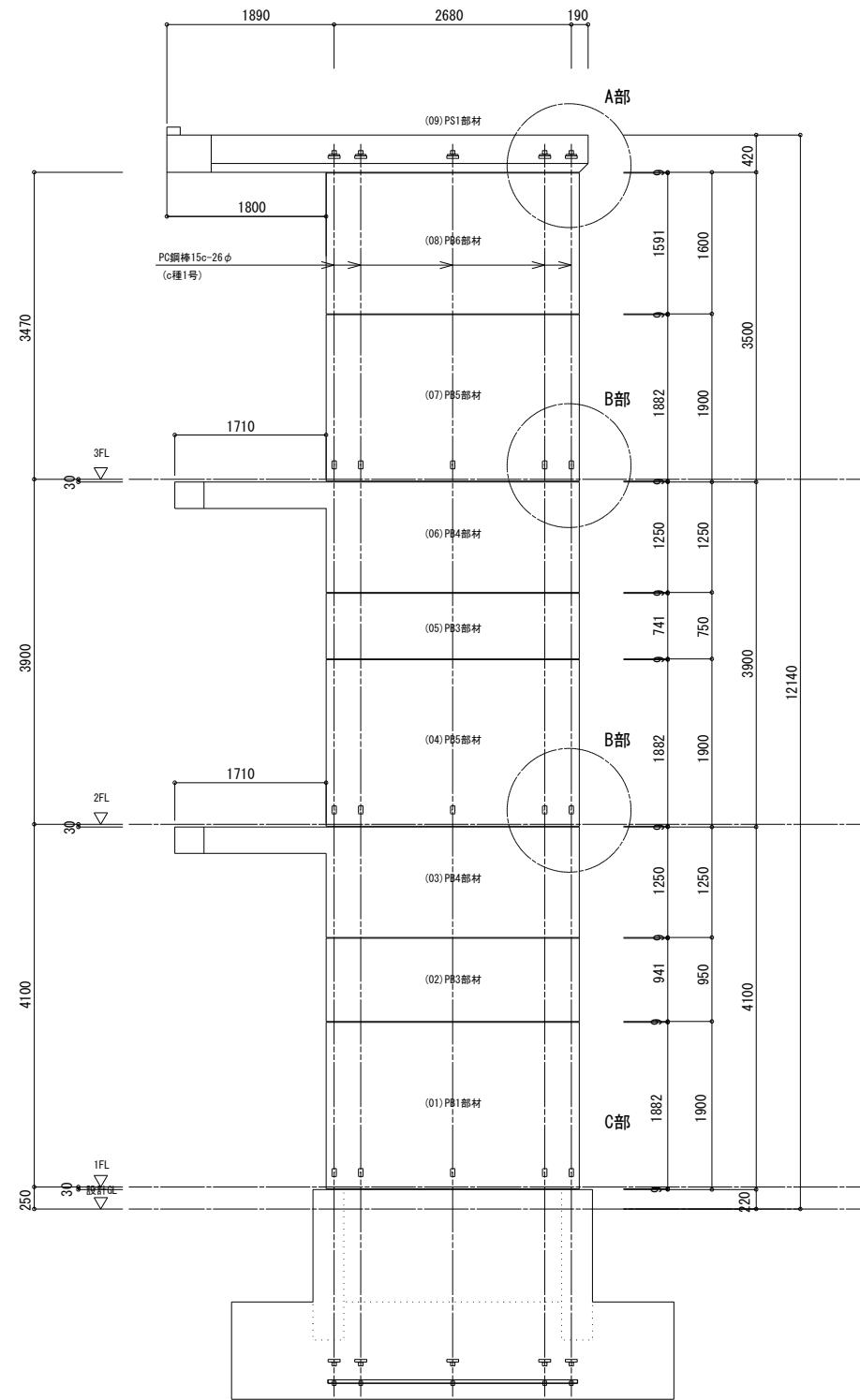
一級建築士(大臣)登録229265号

大村 悟子 株式会社 大村建築設計事務所 TEL

所 9) 62-2651	◆TITLE◆ 旧農業管理センター
-----------------	----------------------

工事（建築工事）

◆ SCALE ◆      MANAGER      CHECK



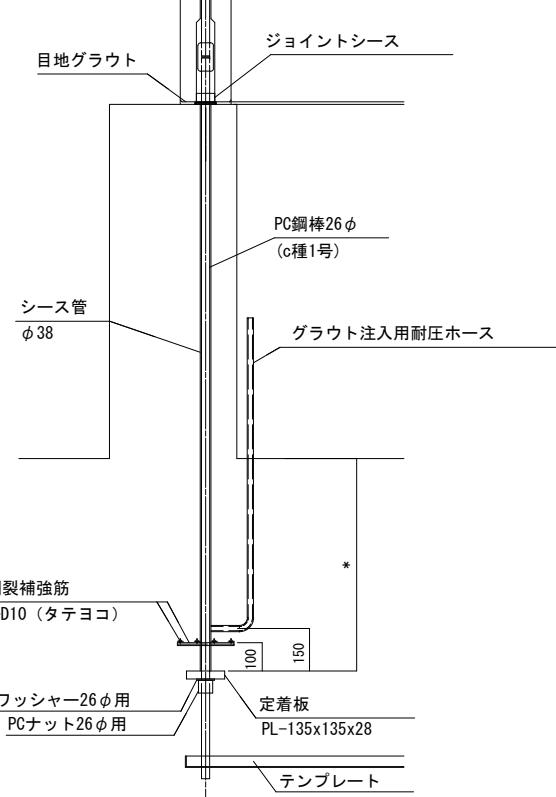
## PC鋼棒定着部詳細図 (C部)

縮尺 1:20

$\gamma_1$        $\gamma_2$

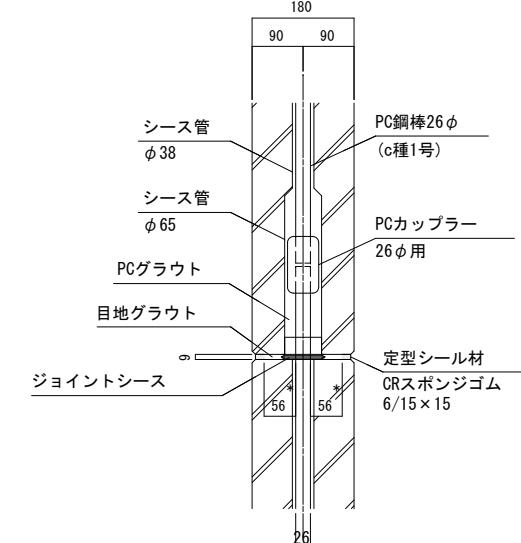
縮尺 1:40

縮尺 1:40



PC鋼棒定着部詳細図 (A部)

\* 昭和58年告示第1320号第12の緩和規定値30mmに施工誤差5mmを加えた値35mmを満たす。



PC鋼棒継手部詳細図 (B部)

\* 昭和58年告示第1320号第12の緩和規定値30mmに施工誤差5mmを加えた値35mmを満たす。

\* 定着版位置はスラブ上面より300mm以上とし  
其基礎配筋を考慮して定める

◆ NOTE ◆

	<b>DATE</b>	.	.	.
	<b>CHECK</b>	-	-	-
	<b>DATE</b>			

	.	.	
	.	.	
	.	.	

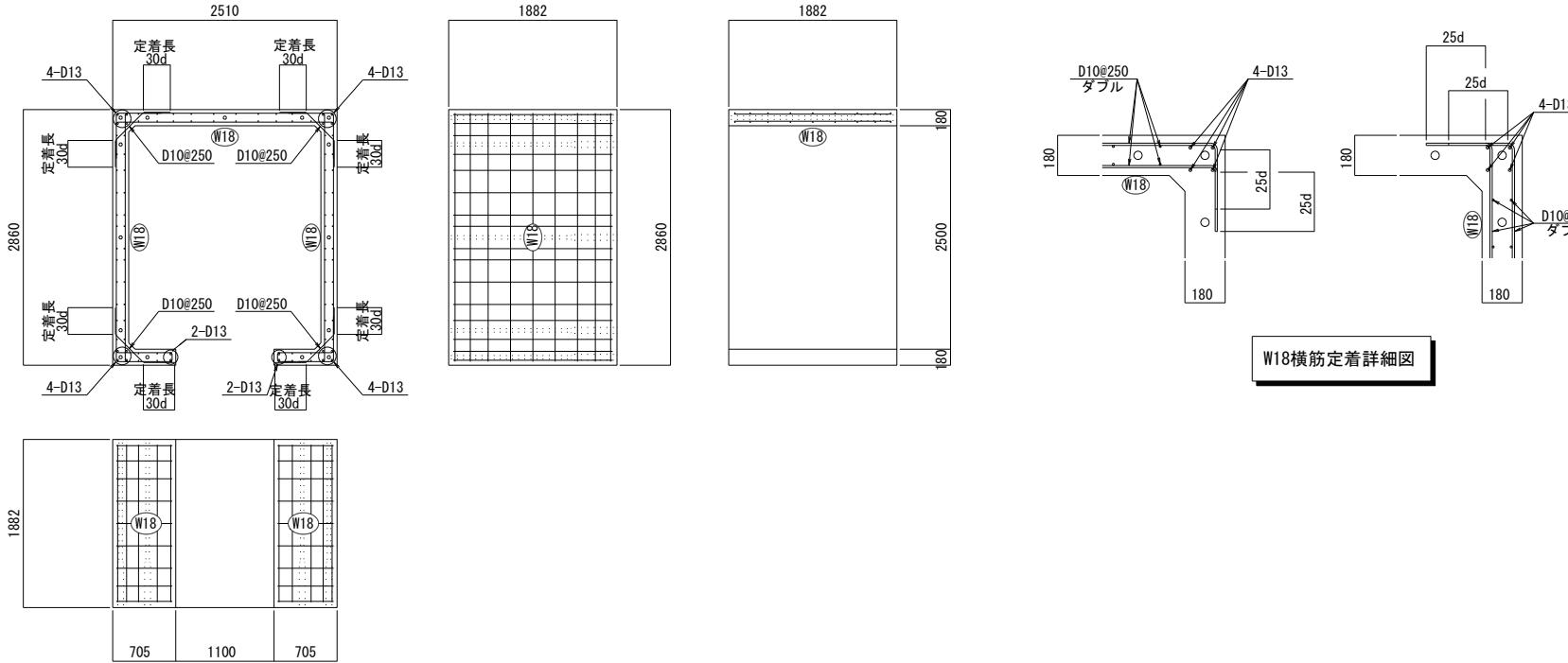
一級建築士(大臣)登録229265号

悟子 株式会社 大村建築設計  
TEL  
級建築士事務所

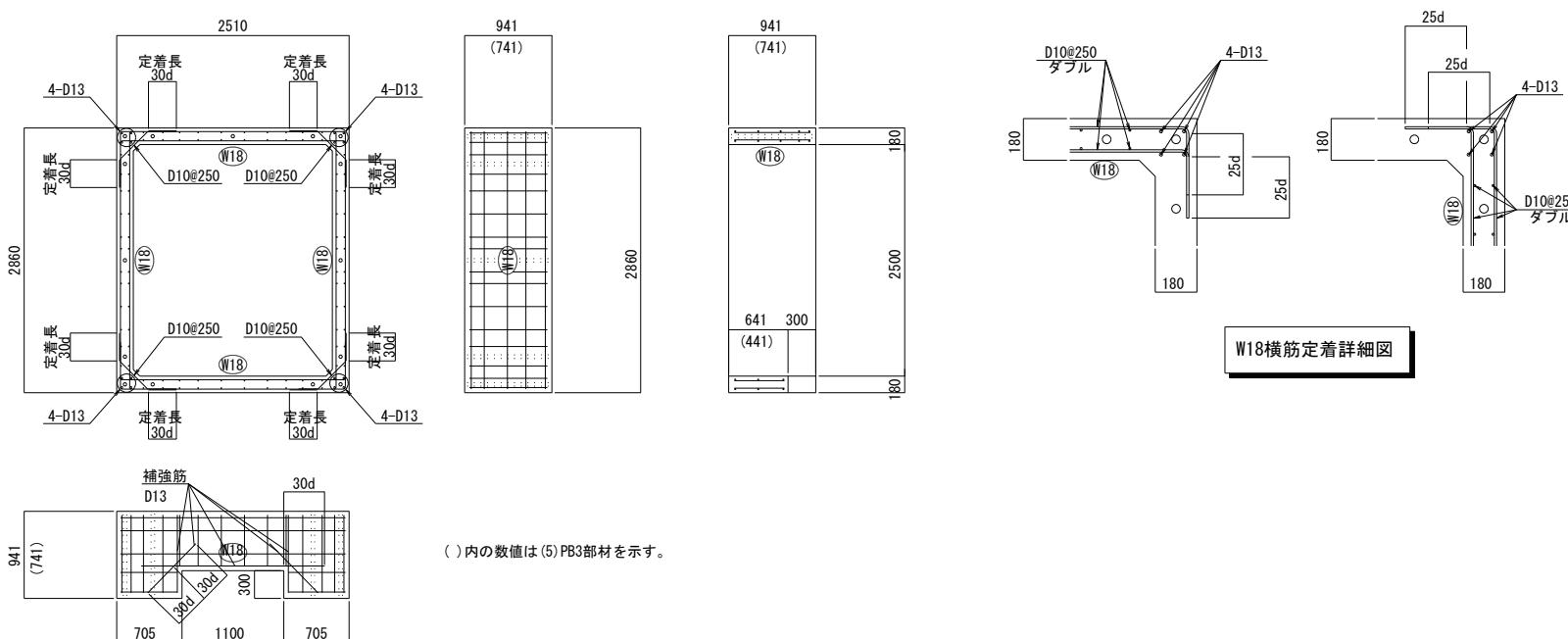
◆TITLE◆  
務所  
(749) 62-2651

卷二-改修工事（建築工事）

◆ SHEET TITLE ◆	◆ SCALE ◆	MANAGER	CHECKED	DRAWN	DRAWN	S-13
EVシャフト PC鋼棒配置図	A1:1/40 A3:1/80					▲



(1) PB1, (4) (7) PB5部材配筋図



## (2) (5) PB3部材配筋図

---

◆NOTE◆

一級建築士(大臣) 登録229265号

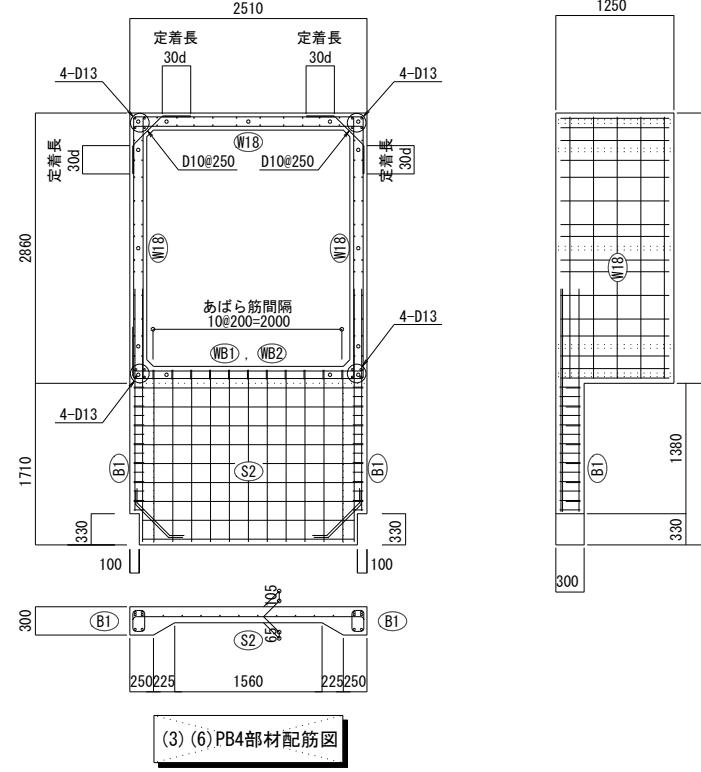
村 悟子 株式会社 大村建築設計事

◆TITLE◆  
旧農業管理センター改修工  
所  
(49) 62-2651

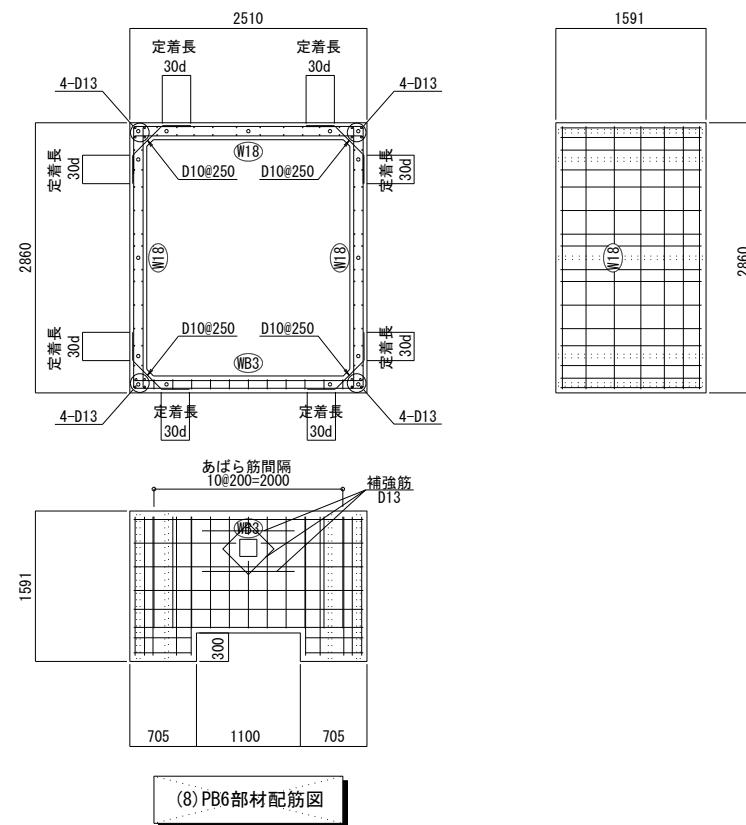
◆SHEET TITLE◆  
EVシャフト PCa部材配筋図1

◆ SCALE ◆  
A1:1/40 A3:1/80

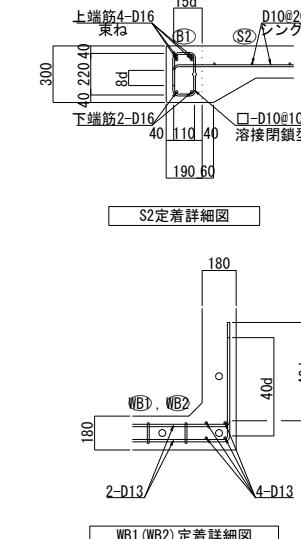
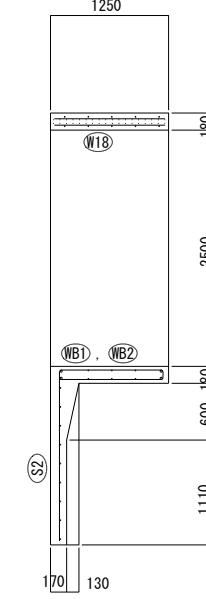
一級建築士	第 254743 号	麻植 健作
構造設計一級建築士	第 2337 号	
DRAWN	S-14	
.....		
.....		
.....		
◆SHEET No◆		



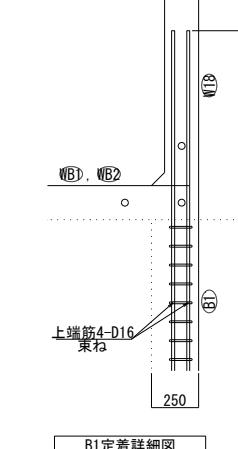
### (3) (6) PB4部材配筋図



(8) PB6部材配筋図



S2定着詳細図



B1定着詳細図

符 号	使 用 部 位	幅 × 厚	配 筋	
B1	接続通路 (各階共通)	190×300	上端筋	4-D16
			下端筋	2-D16
			あばら筋	□-D10@100
WB1 壁ぱり	EV乗降用開口上部 (1階)	180×1250	上端筋	2-D13
			下端筋	2-D13
			あばら筋	□-D10@200
WB2 壁ぱり	EV乗降用開口上部 (2階)	180×1250	上端筋	2-D13
			下端筋	2-D13
			あばら筋	□-D10@200
WB3 壁ぱり	EV乗降用開口上部 (3階)	180×1291	上端筋	2-D13
			下端筋	2-D13
			あばら筋	□-D10@200

※WB1～WB3のあはら筋は溶接閉鎖鉄筋Φ10とし、BCJ評定等評価を受けた工法を用いる。

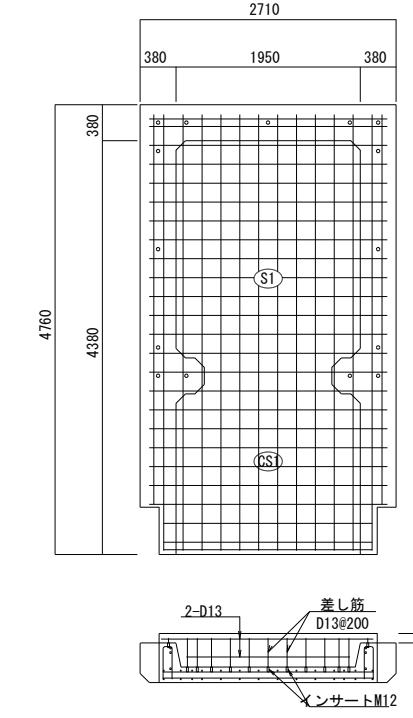
スラブリスト

符 号	使 用 部 位	厚 さ	配 筋	
			X方向	Y方向
S1	屋 根 (たて穴上部)	160以上	上筋	D13@200
			下筋	D13@200
CS1	屋 根 (接続通路上部)	160以上	上筋	D13@200
			下筋	D13@200
S2	接続道路 (各階共通)	170	シングル	D10@200

※X方向とは、EV乗降方向と直交する方向、Y方向はEV乗降方向を言う。

耐力壁リスト

符 号	使 用 部 位	厚 さ	配 筋	
			タ 子 筋	ヨコ筋
W18	各 壁	180	ダブル	D10@250



(9) PS1部材配筋図

PCa部材使用材料

- ・コンクリート  $F_c = 40 \text{ N/mm}^2$  普通コンクリート  
スランプ 21cm以下（スランプフローの場合、50cm以下）
  - ・鉄筋 SD295 (D10~D16)  
GP24E (D10)

◆ NOTE ◆

